

第4章 施設の利活用方策

(1)前提の整理

本章では、公共施設の現況把握と利用状況の調査結果を用いて、屋内・屋外別、競技種目別、及び地区別の比較分析を行っています。

地区区分は「神栖市都市計画マスタープラン」（平成 21 年 3 月）に基づいた 6 区分、神栖西部地区、神栖中部地区、神栖東部地区、若松地区、矢田部地区、波崎地区を採用しています（但し、港湾・工業地区は除き、当該地区に立地する施設は隣接地区に含めています）。

1)対象施設の概要

本調査の対象とした公共スポーツ施設は全 40 室（件）、このうち屋内向け用途が 15 室、屋外向け用途が 25 件となっています。屋内向け用途では、「体育館・屋内競技場」が 5 室、「武道場」が 4 室、屋外向け用途では、「野球場・ソフトボール場」が 9 件、「サッカー・フットボール場」が 7 件などとなっています。

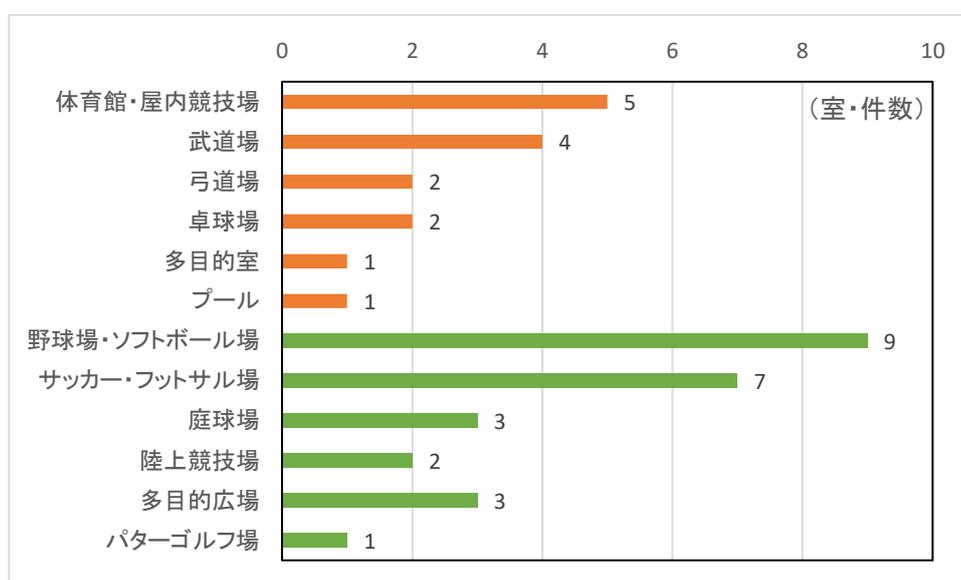


図 4-1 調査対象施設の主要用途別室件数

地区別に施設の分布状況を見ると、いずれの施設も神栖西部地区には立地しておらず、屋内向け用途のうち「体育館・屋内競技場」は神栖西部・神栖東部を除く 4 地区、「武道場」は神栖中部・矢田部・波崎の 3 地区、「弓道場」は神栖中部・波崎の 2 地区にあり、南北バランスよく配置されていますが、「卓球場」は矢田部・波崎と市城南側の 2 地区となっています。

屋外向け用途については、「野球場・ソフトボール場」および「サッカー・フットボール場」は神栖西部を除く 5 地区に立地しています。その他、「庭球場」、「陸上競技場」、「多目的広場」などは、市域中央付近に立地しています。

	神栖西部地区	神栖中部地区	神栖東部地区	若松地区	矢田部地区	波崎地区
屋内向け	体育館・屋内競技場	神栖市民体育館		若松公民館 体育室	競技場	波崎東ふれあいセンター 体育館
	武道場	神栖市武道館 — 大道場 — 小道場			神栖市土合体育館 — 武道場	神栖市波崎体育館 — 武道場
	弓道場	弓道場				神栖市波崎体育館 — 弓道場
	卓球場				神栖市土合体育館 — 卓球室	神栖市波崎体育館 — 卓球室
	多目的室	神之池緑地		若松緑地	土合運動公園 — 多目的室	
	プール			神栖海浜 温水プール		
屋外向け	野球・ソフトボール場	神之池野球場 高浜野球場	神栖海浜球場 神栖海浜ソフトボール場	宝山野球場 若松野球場 若松少年野球場	土合野球場	豊ヶ浜野球場
	サッカー・フットサル場	高浜運動広場 高浜サッカー場	海浜運動公園 神栖海浜サッカー場 神栖総合公園 — サッカー場 — フットサル場	神栖市若松運動場 フィールド	矢田部サッカー場	豊ヶ浜運動公園 豊ヶ浜フットサル場
	庭球場	神之池庭球場	神栖海浜庭球場	若松庭球場		
	陸上競技場	神之池 陸上競技場		神栖市若松運動場トラック		
	多目的広場	石塚運動広場 多目的広場	神栖市海浜運動公園 多目的広場	若松多目的広場		
	パターゴルフ場	神之池 パターゴルフ場				

図 4-2 調査対象施設の一覧および主要用途別の立地状況

※地区区分は「神栖市都市計画マスタープラン」（平成 21 年 3 月）に基づいています（港湾・工業地区は除き、当該地区に立地する施設は隣接地区に含めています）。



図 4-3 調査対象施設の分布マップ

(2) 施設の利用状況による分類と統廃合・利活用の方向性

1) 公共スポーツ施設の現況

① 竣工年から見た施設の状況

○高築年数の施設が多く劣化が顕著に

全施設を竣工年（平成30年12月時点までの経過年数）から見てみると、「神之池緑地運動施設」（神栖市民体育館・神之池野球場・神之池庭球場・神之池陸上競技場）が最も古く、45年が経過しています。次いで、その翌年に竣工した「土合運動公園」の各施設（野球場・体育館）や「波崎東ふれあいセンター体育館」が古く、その他に「豊ヶ浜野球場」、「若松野球場」、「若松多目的広場」、「若松公民館体育室」といった施設が竣工後40年以上経過していることとなります。

特に1981年以前に竣工（築年数37年以上経過）した施設（建物）は、旧耐震基準による建造物であることから、大規模地震による崩壊リスクに備える必要があります。また、新耐震基準による建造物や屋外向け用途の施設（建造物のない施設）についても、設備・備品などの部分的な劣化や破損などが見られる箇所については、利用者の安全性・快適性の観点に立った補修などの処置により、質的向上を図ることが求められます。

	竣工年	築年数
◆ 神栖市民体育館	1973	45
神之池野球場	1973	45
神之池庭球場	1973	45
神之池陸上競技場	1973	45
土合野球場	1974	44
◆ 神栖市土合体育館 武道場	1974	44
◆ 神栖市土合体育館 卓球室	1974	44
◆ 神栖市土合体育館 多目的室	1974	44
◆ 神栖市土合体育館 競技場	1974	44
◆ 波崎東ふれあいセンター 体育館	1974	44
豊ヶ浜野球場	1976	42
若松野球場	1977	41
若松多目的広場	1977	41
◆ 若松公民館 体育室	1978	40
石塚運動広場多目的広場	1980	38
若松少年野球場	1980	38
宝山野球場	1981	37
◆ 神栖市波崎体育館 競技場	1983	35
◆ 神栖市波崎体育館 柔道場	1983	35
◆ 神栖市波崎体育館 卓球室	1983	35
◆ 神栖市波崎体育館 弓道場	1983	35
神栖海浜野球場	1985	33
神栖市海浜運動公園多目的広場	1986	32
◆ 神栖市武道館 大道場	1988	30
◆ 神栖市武道館 小道場	1988	30
◆ 神栖市武道館 弓道場	1988	30
神栖海浜ソフトボール場	1988	30
◆ 神栖海浜温水プール	1995	23
高浜運動広場野球場	1997	21
神栖海浜サッカー場	1997	21
高浜運動広場サッカー場	1998	20
神栖市若松運動場 トラック	1999	19
神栖市若松運動場 フィールド	1999	19
神栖海浜庭球場	2000	18
矢田部サッカー場	2006	12
神栖総合公園サッカー場	2009	9
若松庭球場	2009	9
神栖総合公園フットサル場	2011	7
豊ヶ浜フットサル場	2011	7
施設平均(パターゴルフ場を除く39室)		31.6

図 4-4 施設別築年数（2018 年 12 月現在）

屋内向け用途では、「神栖海浜温水プール」が築 20 年以上で、この他すべての施設が築 30 年以上となっており、計画的な老朽化対策の検討が必要となります。

屋外向け用途では、管理棟や更衣室、シャワー室などの建造物を伴う施設について、施設全体の竣工年とこれらの建造物が同時期のものであると仮定した場合、「石塚運動広場多目的広場」と「神栖海浜球場」の 2 つが築 30 年以上経過しており、修繕などの必要性が生じることが考えられます。その他は比較的新しい施設もしくは建造物を備えていない施設となります。

		神栖西部地区	神栖中部地区	神栖東部地区	若松地区	矢田部地区	波崎地区
屋内向け	築37年以上		・神栖市民体育館		・若松公民館 体育室	・神栖市土合体育館（競技場、武道場、卓球室、多目的室）	・波崎東ふれあいセンター 体育館
	築30年以上		・神栖市武道館（大道場、小道場、弓道場）				・神栖市波崎体育館（競技場、柔道場、弓道場、卓球室）
	築20年以上			・神栖海浜温水プール			
	築20年未満						
屋外向け	建造物（管理棟、シャワー室等）有り	築 37 年以上	・石塚運動広場多目的広場				
		築 30 年以上		・神栖海浜球場			
		築 20 年以上					
		築 20 年未満		・神栖海浜庭球場 ・神栖 総合公園（サッカー場、フットサル場） ・神栖市若松運動場（トラック、フィールド）		・矢田部サッカー場	
	上記以外（建造物無し）		・神之池緑地（野球場、庭球場、陸上競技場、パターゴルフ場） ・高浜運動広場（野球場、サッカー場）	・神栖市海浜運動公園（ソフトボール場、サッカー場、多目的広場）	・若松緑地（野球場、少年野球場、庭球場、多目的広場） ・宝山野球場	・土合野球場	・豊ヶ浜運動公園（野球場、フットサル場）

図 4-5 築年別施設の地区別分布状況（2018 年 12 月現在）

②維持管理コストから見た施設の状況

○施設の維持管理コスト（利用1件当たり）にもバラツキあり

築年数と利用1件当たりコストには相関関係はみられないようですが、むしろ、競技種目によって集まる傾向があります。

高コスト施設の競技種目は<競技場>と<野球場>、低コスト施設の競技種目は<体育館>と<庭球場><フットサル場>となっています。

	竣工年	築年数 (年)	利用1件 当たり コスト (万円)
神栖市若松運動場 トラック	1999	19	17.7
神栖市若松運動場 フィールド	1999	19	16.6
神之池野球場	1973	45	13.6
神栖海浜球場	1985	33	12.3
石塚運動広場多目的広場	1980	38	12.0
神栖市波崎体育館 柔道場	1983	35	11.8
神之池陸上競技場	1973	45	9.2
神栖海浜サッカー場	1997	21	8.2
神栖市海浜運動公園多目的広場	1986	32	8.2
神栖市武道館 弓道場	1988	30	8.0
宝山野球場	1981	37	5.8
若松野球場	1977	41	5.6
高浜野球場	1997	21	5.0
神栖市武道館 小道場	1988	30	4.7
矢田部サッカー場	2006	12	4.4
神栖海浜ソフトボール場	1988	30	4.0
神栖市土合体育館 武道場	1974	44	3.6
土合野球場	1974	44	3.6
若松少年野球場	1980	38	3.5
神栖市土合体育館 多目的室	1974	44	2.9
神栖市波崎体育館 卓球室	1983	35	2.8
神栖市波崎体育館 弓道場	1983	35	2.7
神栖市武道館 大道場	1988	30	2.6
高浜運動広場サッカー場	1998	20	2.6
神栖総合公園サッカー場	2009	9	2.5
豊ヶ浜野球場	1976	42	2.2
若松多目的広場	1977	41	2.2
神栖市波崎体育館 競技場	1983	35	1.7
神栖市民体育館	1973	45	1.7
若松公民館 体育室	1978	40	0.9
豊ヶ浜フットサル場	2011	7	0.8
神栖市土合体育館 競技場	1974	44	0.8
神栖市土合体育館 卓球室	1974	44	0.8
若松庭球場	2009	9	0.7
神栖総合公園フットサル場	2011	7	0.5
神之池庭球場	1973	45	0.4
神栖海浜庭球場	2000	18	0.3
神栖海浜温水プール	1995	23	0.1
波崎東ふれあいセンター 体育館	1974	44	NA
施設平均(パターゴルフ場を除く39室)		31.6	4.8

※平均以上のコストにマーキング

図 4-6 施設別1件当たりコスト（2017年度）

算出方法：(運動施設管理運営費+人件費) ÷ 利用申込件数 (のべ)

人件費＝職員給料＋手当＋福利厚生費 ※複数施設にまたがる人件費は施設別の利用率で按分

屋内向け用途の平均コストは、利用1件当たり3.0万円です。この中では特に「神栖市波崎体育館 柔道

場」(11.8万円/件)と「神栖市武道館 弓道場」(8.0万円/件)の高コストが目立ちます。

屋外向け用途の平均コストは、利用1件当たり5.9万円で、屋内向け用途の2倍となっています。「神栖市若松運動場」の「トラック」(17.7万円/件)および「フィールド」(16.9万円/件)の両競技種目が目立つほか、「神之池野球場」、「神栖海浜野球場」、「石塚運動広場多目的広場」で平均の2倍程度のコストとなっています。

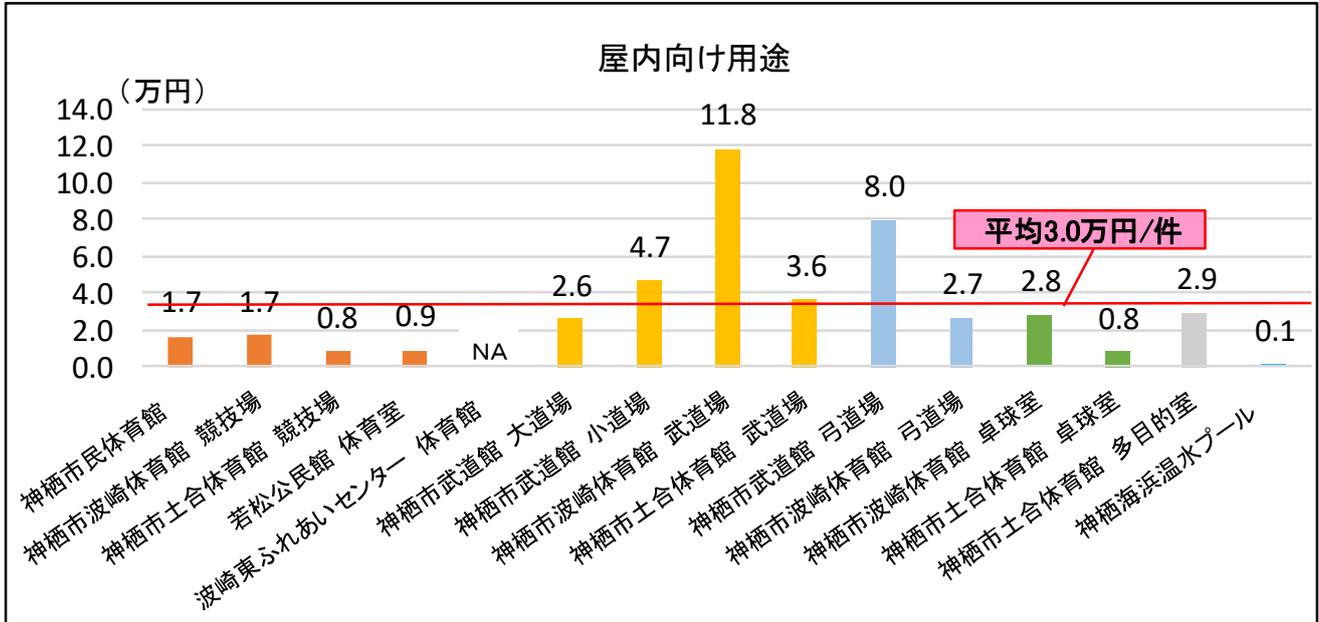


図 4-7 屋内向け用途の施設別利用1件当たりコスト (2017年度)

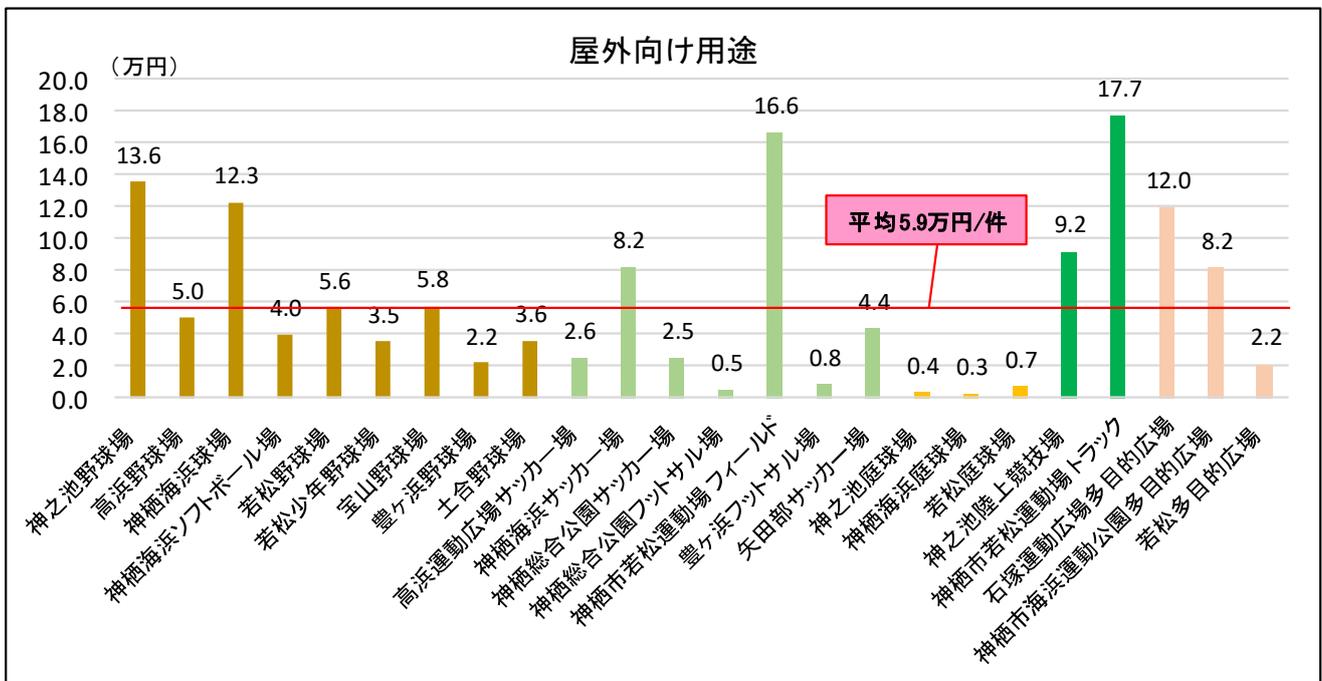


図 4-8 屋外向け用途の施設別利用1件当たりコスト (2017年度)

2) 公共スポーツ施設の利用状況

①各施設の利用状況

○施設の利用率にはバラツキあり（年平均、月次変動など）

年間利用率の高い施設は、屋内施設（体育館）が上位にあります。雨天の影響を受けないことから当然ともいえますが、屋外施設でも築年数の浅いもの（20年未満：淡黄色のマーキング）や、＜サッカー場＞＜フットサル場＞＜庭球場＞の年間利用率は平均以上になっています。

	竣工年	築年数	年間利用率(%)		
			2015年度	2016年度	2017年度
神栖市民体育館	1973	45	54.4	47.8	54.7
神栖市土合体育館 競技場	1974	44	54.0	50.7	49.8
若松公民館 体育室	1978	40	52.8	48.3	49.4
神栖市武道館 大道場	1988	30	41.0	41.5	44.2
神栖総合公園サッカー場	2009	9	45.0	34.9	43.2
神栖市波崎体育館 競技場	1983	35	38.1	38.3	41.1
高浜運動広場野球場	1997	21	35.5	35.0	35.6
豊ヶ浜フットサル場	2011	7	29.6	29.7	34.6
波崎東ふれあいセンター 体育館	1974	44	23.3	21.3	34.5
神栖市武道館 小道場	1988	30	34.3	37.2	32.4
神栖海浜庭球場	2000	18	28.3	31.5	32.0
矢田部サッカー場	2006	12	33.5	32.8	31.1
神栖総合公園フットサル場	2011	7	28.3	27.4	30.4
豊ヶ浜野球場	1976	42	21.7	20.6	30.0
神栖海浜球場	1985	33	28.0	24.9	28.8
神栖市土合体育館 卓球室	1974	44	24.4	27.4	28.5
神栖市武道館 弓道場	1988	30	42.6	26.5	27.0
若松庭球場	2009	9	22.9	26.8	26.6
神栖海浜サッカー場	1997	21	25.2	16.6	25.3
神栖海浜温水プール	1995	23	22.1	21.6	23.5
神栖市土合体育館 武道場	1974	44	29.8	33.9	23.0
石塚運動広場多目的広場	1980	38	21.1	21.5	21.1
神栖市土合体育館 多目的室	1974	44	18.2	15.3	20.5
神栖市海浜運動公園 多目的広場	1986	32	24.2	17.9	19.6
神栖市若松運動場 フィールド	1999	19	19.8	19.5	18.7
土合野球場	1974	44		14.2	17.8
若松野球場	1977	41	19.0	18.8	16.5
神栖市波崎体育館 卓球室	1983	35	15.4	13.6	15.0
若松多目的広場	1977	41	20.8	16.0	15.0
神栖市波崎体育館 弓道場	1983	35	5.9	14.9	13.3
神栖市波崎体育館 柔道場	1983	35	12.0	9.3	11.7
神之池陸上競技場	1973	45	12.7	10.3	11.4
神之池庭球場	1973	45	12.0	10.3	11.3
神之池野球場	1973	45	10.5	5.9	10.9
神栖海浜ソフトボール場	1988	30	11.2	13.5	9.0
高浜運動広場サッカー場	1998	20	5.5	6.5	8.4
宝山野球場	1981	37	7.9	9.4	7.5
若松少年野球場	1980	38	7.0	4.3	4.6
神栖市若松運動場 トラック	1999	19	8.6	10.8	1.8
施設平均(パターゴルフ場を除く39室)			24.9	23.2	24.6

築20年以下

※2017年度の利用率のうち、平均以上の利用率にマーキング
 ※2015年度の土合野球場は、改修工事により年間通じて閉鎖

図 4-9 3カ年の施設別利用率

	竣工年	築年数	予約可能最大時間枠数(時間)		
			2015年度	2016年度	2017年度
神栖海浜庭球場	2000	18	68,208	67,792	58,288
神栖市波崎体育館 競技場	1983	35	31,136	30,592	31,012
神之池庭球場	1973	45	20,848	20,656	20,872
神栖市武道館 大道場	1988	30	19,480	19,280	18,980
神栖市民体育館	1973	45	23,268	23,160	17,760
神栖市土合体育館 卓球室	1974	44	15,280	15,104	15,504
神栖市波崎体育館 卓球室	1983	35	15,568	15,440	15,408
矢田部サッカー場	2006	12	14,575	14,535	13,763
神栖海浜温水プール	1995	23	14,253	14,491	12,468
神栖市土合体育館 競技場	1974	44	10,476	11,376	11,628
神栖総合公園フットサル場	2011	7	11,676	11,484	11,552
神栖市海浜運動公園多目的広場	1986	32	10,288	9,544	10,272
神栖市武道館 小道場	1988	30	7,800	7,756	7,736
若松公民館 体育室	1978	40	3,120	6,320	7,514
神栖総合公園サッカー場	2009	9	6,524	7,713	6,500
若松庭球場	2009	9	5,272	5,224	5,248
石塚運動広場多目的広場	1980	38	10,496	10,432	5,232
神栖海浜サッカー場	1997	21	5,256	5,112	5,200
豊ヶ浜フットサル場	2011	7	3,892	3,848	3,876
神栖市波崎体育館 柔道場	1983	35	3,892	3,860	3,864
神栖市土合体育館 多目的室	1974	44	3,856	3,776	3,864
神栖市武道館 弓道場	1988	30	2,624	3,864	3,860
神栖市波崎体育館 弓道場	1983	35	3,892	3,856	3,860
神栖市土合体育館 武道場	1974	44	3,868	3,776	3,856
波崎東ふれあいセンター 体育館	1974	44	3,720	3,732	3,684
神栖市若松運動場 フィールド	1999	19	2,664	2,664	2,672
若松野球場	1977	41	2,664	2,648	2,648
若松運動場トラック	1999	19	2,664	2,544	2,640
若松少年野球場	1980	38	2,664	2,551	2,632
神之池野球場	1973	45	2,624	2,608	2,616
高浜運動広場野球場	1997	21	2,624	2,608	2,616
高浜運動広場サッカー場	1998	20	2,624	2,608	2,616
神栖海浜球場	1985	33	2,632	2,664	2,616
神栖海浜ソフトボール場	1988	30	2,592	2,576	2,616
宝山野球場	1981	37	2,664	2,832	2,616
神之池陸上競技場	1973	45	2,624	2,608	2,608
豊ヶ浜野球場	1976	42	3,892	3,848	2,608
土合野球場	1974	44		2,204	2,608
若松多目的広場	1977	41	2,664	2,880	2,600
施設平均(パターゴルフ場を除く39室)			9,339	9,245	8,680

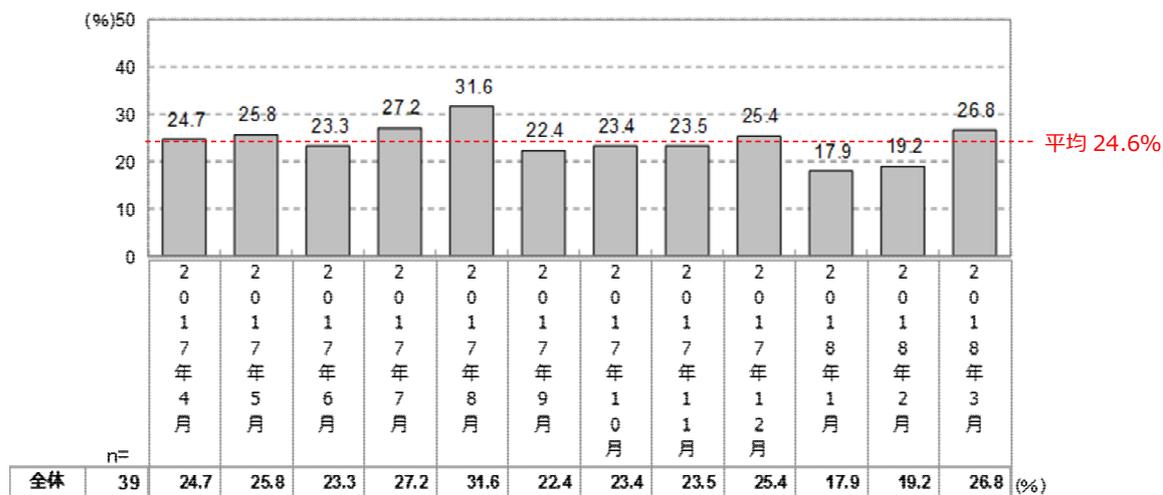
築20年以下

※2017年度の利用率のうち、平均以上の利用率にマーキング
 ※2015年度の土合野球場は、改修工事により年間通じて閉鎖

図 4-10 3カ年の予約可能最大時間枠数(時間)

予約可能最大時間枠数(施設の利用許容量)は、<庭球場>と<体育館>で多い施設が多い反面、<野球場>は少ない傾向がみられます。

②施設利用率の月次変動



※パターゴルフ場を除く 39 室平均 (2017 年度)

図 4-11 施設利用率の月次変動 (再掲)

8月がオンシーズン、1月・2月がオフシーズンで、12~14ポイントの差があり、年間平均は24.6%となっています。

③屋内向け用途別の利用率の月次変動(2017年度)

※表中の「差分」は、当該月で最も高い利用率と最も低い利用率の差（単位：ポイント）

■体育館・屋内競技場

- 体育館・屋内競技場は、1月に利用が低迷し、3月・8月・10月に利用が向上する傾向が見られます。
- 「神栖市民体育館」は改修工事期間（平成29年12月12日から平成30年3月10日まで）にあたった1月・2月を除けば年間を通して利用率が高く、特に10月・12月・3月の利用が多くなっています。
- 3月はいずれの体育館も利用は多いのですが、特に「若松公民館 体育室」の利用が多く、その一方で「神栖市土合体育館 競技場」は3月の利用が少なく、4月・5月の利用が他の体育館と比べて多い状況です。
- 「神栖市波崎体育館 競技場」は年間を通して変動幅が大きく、7月・11月・12月・1月に落ち込みます。
- 「波崎東ふれあいセンター 体育館」は、他の施設と比べると全体的に利用率が低めです。

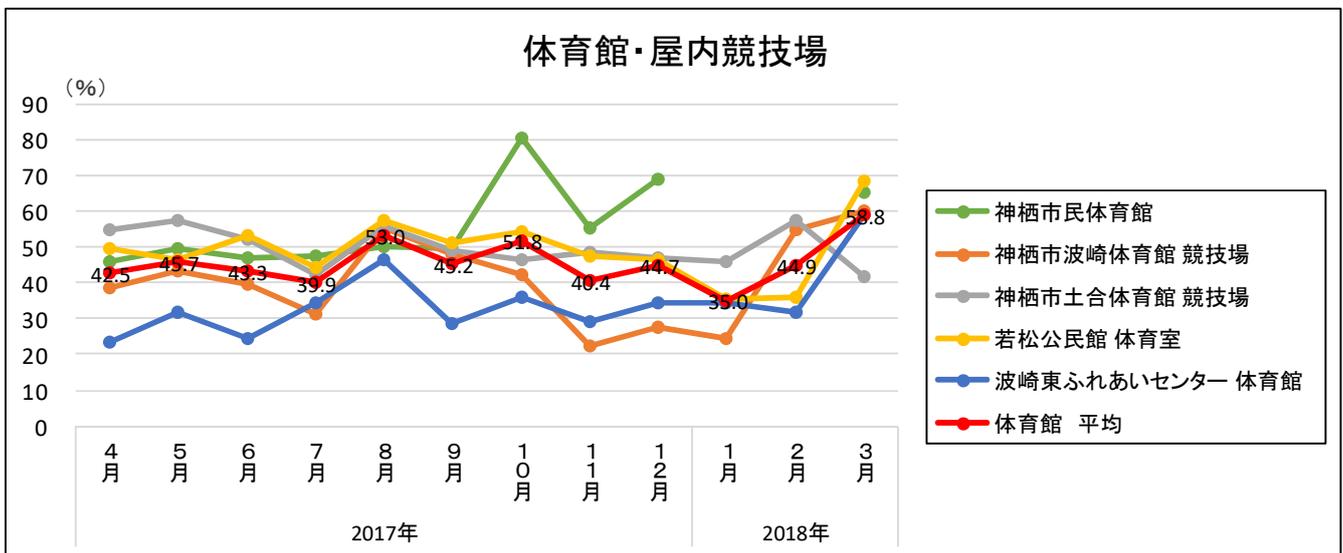


図 4-12 「体育館・屋内競技場」の月次利用率グラフ（2017年度）

		神栖中部地区		若松地区		矢田部地区		波崎地区		差分(赤-青) 赤字:最高値 青字:最低値
		神栖市民体育館	若松公民館 体育室	神栖市土合 体育館 競技場	波崎東ふれあい センター 体育館	神栖市波崎 体育館 競技場				
2017年	4月	45.9	49.6	55.0	23.2	38.7	31.8			
	5月	49.6	46.3	57.6	31.9	43.1	25.7			
	6月	47.1	53.2	52.1	24.4	39.7	28.8			
	7月	47.6	44.1	42.2	34.3	31.1	16.5			
	8月	50.0	57.5	56.0	46.1	55.5	11.4			
	9月	49.7	51.0	48.9	28.7	47.7	22.3			
	10月	80.5	54.3	46.3	35.9	42.0	44.6			
	11月	55.1	47.4	48.3	29.0	22.2	32.9			
	12月	68.7	46.5	46.8	34.2	27.5	41.2			
	2018年	1月	※	35.2	45.8	34.5	24.3	21.5		
2月		※	35.9	57.2	31.8	54.7	25.4			
3月		65.2	68.3	41.8	58.8	59.9	26.5			
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	全体平均 (%)			
年間平均		55.9	49.1	49.8	34.4	40.5	46.0			

※神栖市体育館は2017年12月12日から2018年3月10日まで工事のため閉館

図 4-13 「体育館・屋内競技場」の月次利用率表（2017年度）

■ 武道場

- 武道場4室全体の年間平均利用率は28%程度で、10月・11月の利用が若干高く、5月が落ち込んでいますが、ほぼ平準化しています。また、利用率の高い施設と低い施設の差が目立ちます。
- 「神栖市武道場 大道場」は10月・11月・3月の利用率が50%程度になる一方、「神栖市波崎体育館 柔道場」は全般的に利用率が低く、4月から7月、2月には一けた台の利用率となっています。

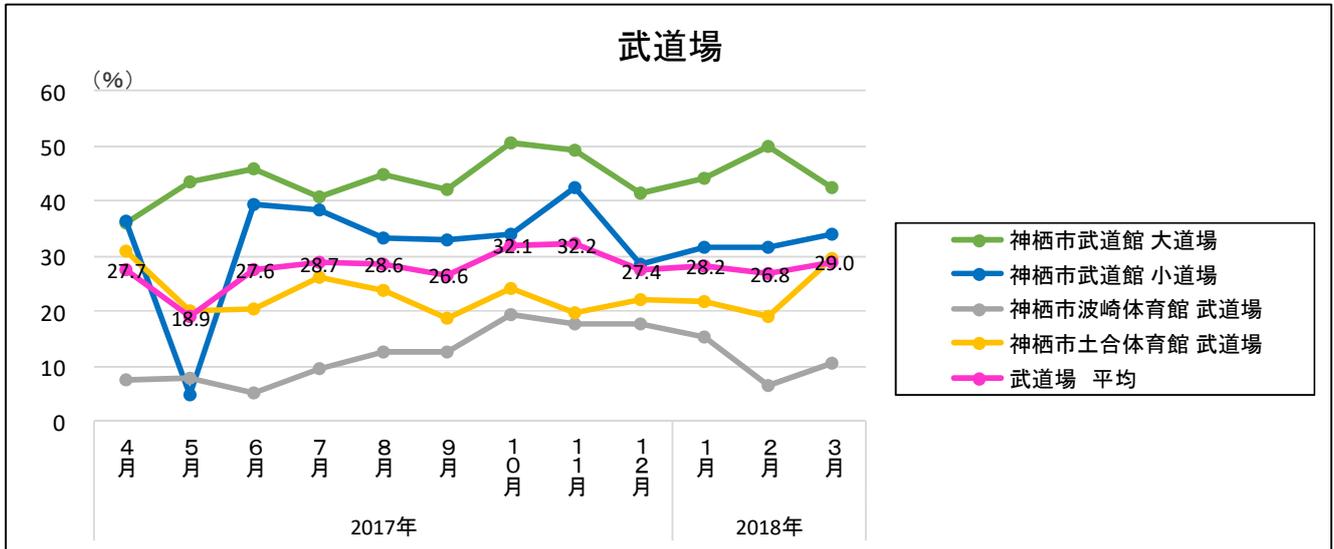


図 4-14 「武道場」の月次利用率グラフ (2017年度)

	神栖中部地区		矢田部地区	波崎地区	差分(赤-青) 赤字:最高値 青字:最低値		
	神栖市武道館 大道場	神栖市武道館 小道場	神栖市土合体育館 武道場	神栖市波崎体育館 武道場			
2017年	4月	36.0	36.4	30.8	7.4	29.0	
	5月	43.5	4.6	19.9	7.7	38.9	
	6月	45.8	39.3	20.2	5.1	40.7	
	7月	40.8	38.5	26.2	9.4	31.4	
	8月	44.9	33.3	23.6	12.6	32.3	
	9月	42.0	33.1	18.8	12.4	29.6	
	10月	50.7	34.0	24.1	19.4	31.3	
	11月	49.1	42.3	19.6	17.6	31.5	
	12月	41.3	28.5	22.1	17.8	23.5	
	2018年	1月	44.1	31.7	21.7	15.3	28.8
		2月	50.0	31.5	19.0	6.6	43.4
		3月	42.3	33.8	29.5	10.4	31.9
年間平均					(%)	27.8	
		(%)	(%)	(%)	(%)		
		44.2	32.3	23.0	11.8		

図 4-15 「武道場」の月次利用率表 (2017年度)

■ 弓道場, 卓球場

- 弓道場2室は、「神栖市武道館 弓道場」の年間平均利用率が約27%であるのに対し、「神栖市波崎体育館 弓道場」は約13%で、年間を通して概ね10~20ポイント程度の差があります。
- 卓球場2室は、「神栖市土合体育館 卓球室」が年間平均利用率29%程度と「神栖市波崎体育館 卓球室」(15%)を2倍近く上回っています。

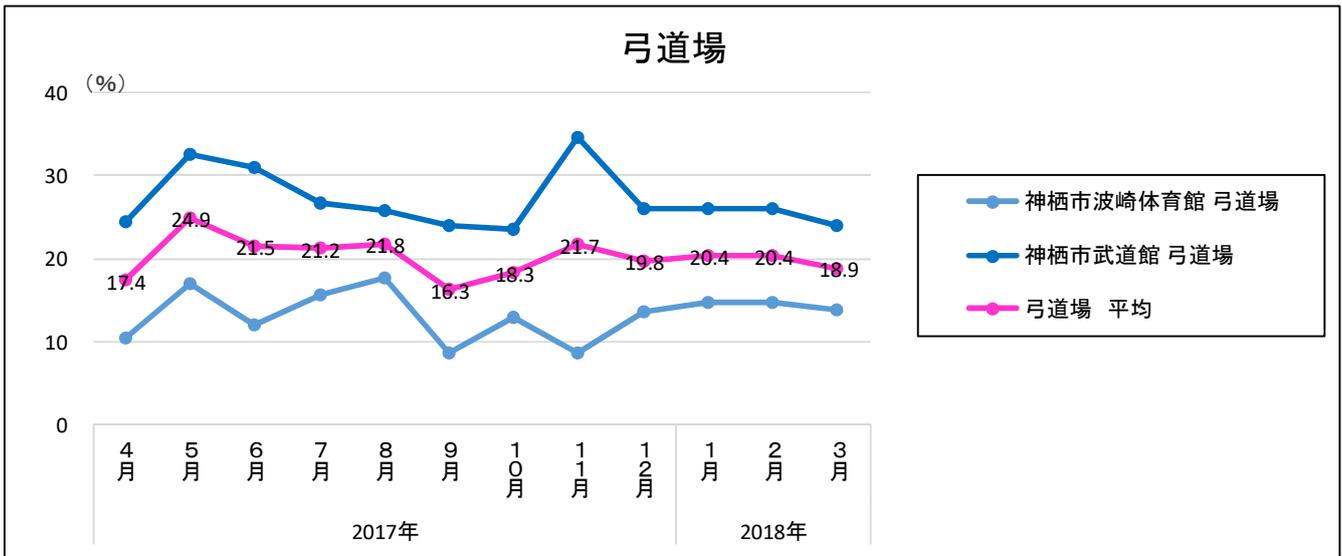


図 4-16 「弓道場」の月次利用率グラフ (2017 年度)

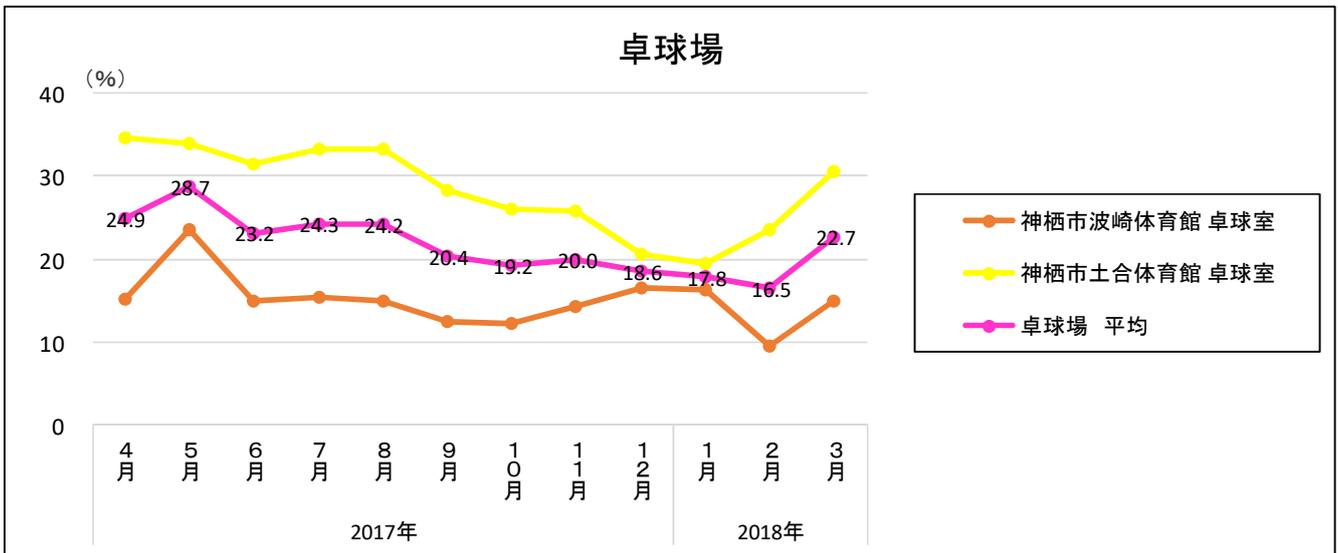


図 4-17 「卓球場」の月次利用率グラフ (2017 年度)

	弓道場			卓球場				
	神栖地区	波崎地区	差分(赤-青) 赤字:最高値 青字:最低値	矢田部地区	波崎地区	差分(赤-青) 赤字:最高値 青字:最低値		
	神栖市武道館 弓道場	神栖市波崎 体育館 弓道場		神栖市土合 体育館 卓球室	神栖市波崎 体育館 卓球室			
2017年	4月	24.4	10.3	14.1	34.6	15.1	19.5	
	5月	32.7	17.0	15.7	33.9	23.5	10.4	
	6月	31.1	11.9	19.2	31.4	15.0	16.4	
	7月	26.8	15.6	11.2	33.2	15.4	17.8	
	8月	25.8	17.7	8.1	33.3	15.0	18.3	
	9月	23.9	8.6	15.3	28.2	12.5	15.7	
	10月	23.5	13.0	10.5	26.1	12.3	13.8	
	11月	34.6	8.7	25.9	25.7	14.2	11.5	
	12月	26.0	13.5	12.5	20.6	16.5	4.1	
	2018年	1月	26.0	14.7	11.3	19.4	16.2	3.2
		2月	26.0	14.7	11.3	23.5	9.5	14.0
		3月	23.9	13.8	10.1	30.5	14.9	15.6
	(%)	(%)	全体平均 (%)	(%)	(%)	全体平均 (%)		
年間平均	27.1	13.3	20.2	28.4	15.0	21.7		

図 4-18 「弓道場」, 「卓球場」の月次利用率表 (2017 年度)

■多目的室, プール

- 「神栖市土合体育館 多目的室」は、9月～11月と2月が25～30%程度の利用率がありますが、それ以外の月は10%台の利用率となっています。
- 「神栖海浜温水プール」は、7月・8月にピークがあり、最多の8月が利用率約45%です。12月から3月にかけては、利用率が10%台に落ち込みます。

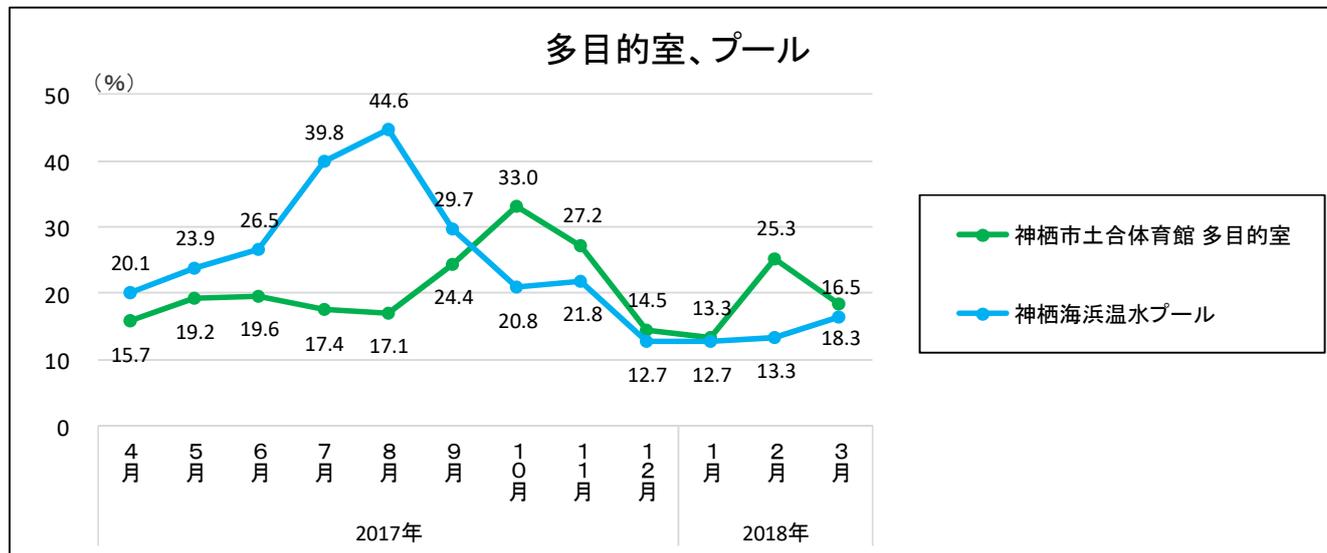


図 4-19 「多目的室」, 「プール」の月次利用率グラフ (2017 年度)

④屋外向け用途別の利用率の月次変動(2017 年度)

※表中の「差分」は、当該月で最も高い利用率と最も低い利用率の差 (単位: ポイント)

■野球場・ソフトボール場

- 野球場・ソフトボール場全体の年間平均利用率は約18%です。全体的なピークは8月、オフピークは1月に見られます。
- 「豊ヶ浜野球場」や「神栖海浜球場」のように月ごとに大きく利用率の変動する施設が多い中で、「高浜運動広場野球場」は比較的平準化しており、年間36%程度の利用率となっています。
- 若松地区の「若松少年野球場」や「宝山野球場」は、ほとんど利用されていない月も目立ちます。

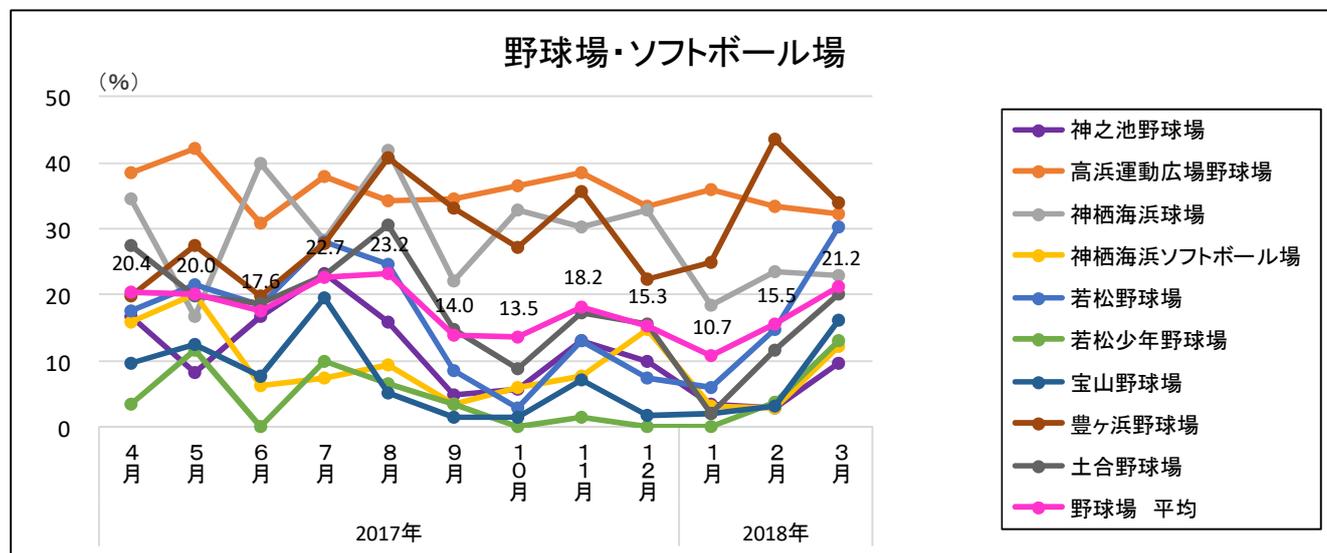


図 4-20 「野球場・ソフトボール場」の月次利用率グラフ (2017 年度)

	神栖中部地区			神栖東部地区		若松地区			矢田部地区	波崎地区	差分(赤-青)	
	神之池野球場	高浜運動広場 野球場	神栖海浜球場	神栖海浜 ソフトボール場	若松野球場	若松 少年野球場	宝山野球場	土合野球場	豊ヶ浜野球場	赤字:最高値 青字:最低値		
2017年	4月	16.8	38.5	34.6	15.9	17.5	3.3	9.6	27.4	19.7	35.2	
	5月	8.2	42.3	16.8	20.2	21.6	11.5	12.5	19.7	27.4	34.1	
	6月	16.8	30.8	39.9	6.3	18.3	0.0	7.7	18.8	19.7	39.9	
	7月	23.3	37.9	28.4	7.3	28.0	9.9	19.4	22.8	27.6	28.0	
	8月	15.7	34.3	41.9	9.3	24.6	6.5	5.2	30.6	40.7	36.7	
	9月	4.7	34.5	22.0	3.4	8.6	3.4	1.3	14.7	33.2	33.2	
	10月	5.6	36.6	32.9	6.0	2.8	0.0	1.4	8.8	27.3	36.6	
	11月	13.0	38.5	30.3	7.7	13.0	1.4	7.2	17.3	35.6	37.1	
	12月	9.9	33.3	32.8	14.6	7.3	0.0	1.6	15.6	22.4	33.3	
	2018年	1月	3.5	36.0	18.5	3.0	6.0	0.0	2.0	2.1	25.0	36.0
		2月	2.8	33.3	23.6	2.8	14.8	3.8	3.2	11.6	43.5	40.7
		3月	9.7	32.3	23.0	12.1	30.2	12.9	16.1	20.2	33.9	24.2
年間平均	(%) 10.8	(%) 35.7	(%) 28.7	(%) 9.1	(%) 16.1	(%) 4.4	(%) 7.3	(%) 17.5	(%) 29.7	全体平均 (%) 17.7		

図 4-21 「野球場・ソフトボール場」の月次利用率表（2017年度）

■サッカー場・フットサル場

- サッカー場・フットサル場全体の年間平均利用率は約 27%です。
- 全体的なピークは8月と12月、3月にあり、特に8月は「矢田部サッカー場」、「神栖海浜サッカー場」、「神栖総合公園サッカー場」の3施設で利用率65%を超え、12月は「神栖総合公園フットサル場」や「豊ヶ浜フットサル場」も利用率が40%以上となります。
- 「高浜運動広場サッカー場」の年間平均利用率は8%程度で、「神栖市若松運動場 フィールド」と共にほとんど利用されていない月があります（10・11月）。

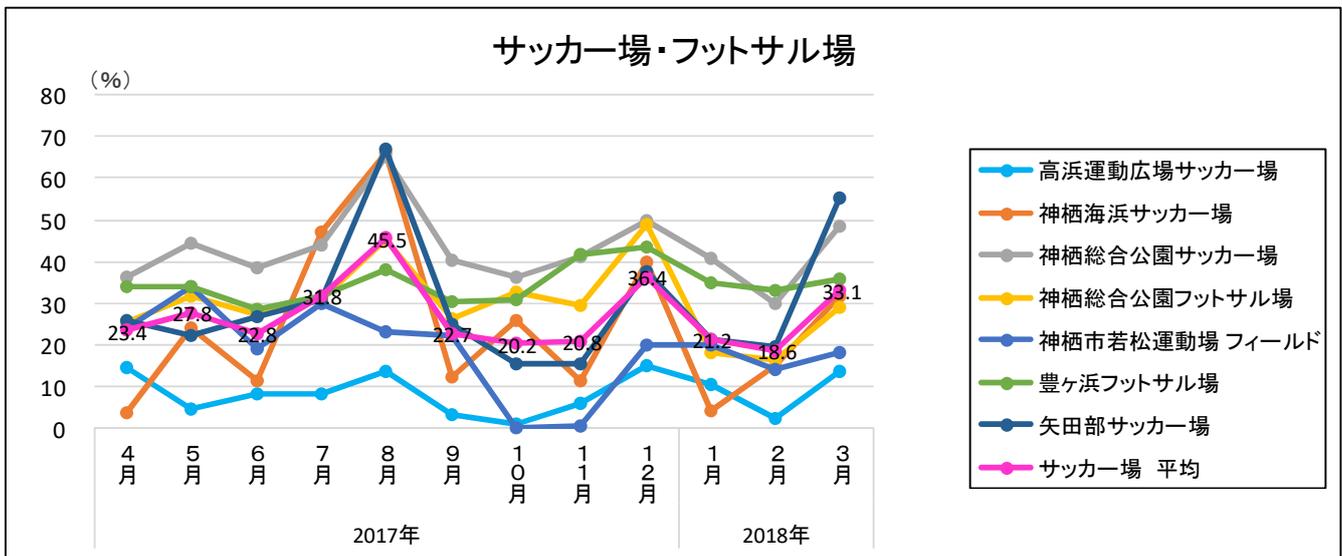


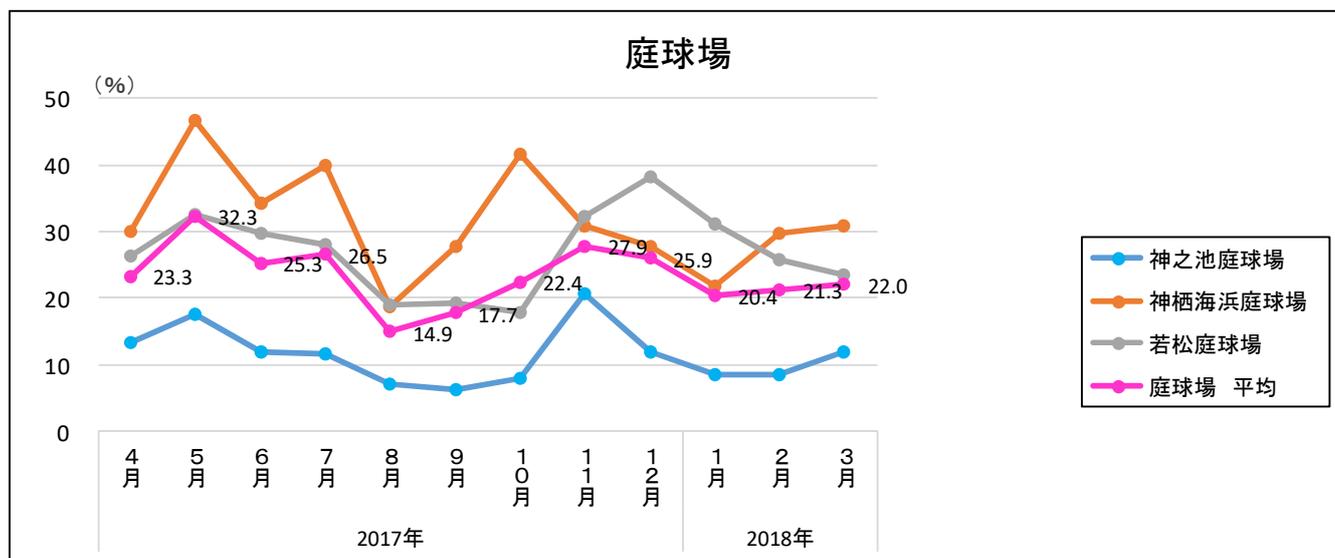
図 4-22 「サッカー場・フットサル場」の月次利用率グラフ（2017年度）

	神栖中部地区		神栖東部地区		若松地区	矢田部地区	波崎地区	差分(赤-青) 赤字:最高値 青字:最低値		
	高浜運動広場 サッカー場	神栖海浜 サッカー場	神栖総合公園 サッカー場	神栖総合公園 フットサル場	神栖市若松運 動場 フィールド	矢田部 サッカー場	豊ヶ浜 フットサル場			
2017年	4月	14.4	3.4	36.3	25.5	24.0	25.9	34.0	32.9	
	5月	4.3	24.0	44.2	31.9	34.1	22.3	34.0	39.9	
	6月	8.2	11.5	38.7	27.1	18.8	26.9	28.5	30.5	
	7月	8.2	47.0	44.1	30.7	30.0	30.8	31.5	35.9	
	8月	13.7	66.1	65.2	45.1	23.0	67.2	38.2	53.5	
	9月	3.0	12.1	40.4	26.1	22.0	24.9	30.5	37.4	
	10月	0.9	25.9	36.1	32.6	0.0	15.2	30.9	36.1	
	11月	5.8	11.5	41.0	29.4	0.5	15.5	41.7	41.2	
	12月	15.1	40.0	49.6	48.9	20.0	37.7	43.4	34.5	
	2018年	1月	10.5	3.9	40.6	18.2	19.7	21.1	34.7	36.7
		2月	2.3	14.8	29.9	16.2	13.9	19.6	33.2	30.9
		3月	13.7	31.7	48.3	28.8	18.1	55.4	35.7	41.7
年間平均	(%) 8.3	(%) 24.3	(%) 42.9	(%) 30.0	(%) 18.7	(%) 30.2	(%) 34.7	全体平均 (%) 27.0		

図 4-23 「サッカー場・フットサル場」の月次利用率表（2017年度）

■庭球場, 陸上競技場

- 庭球場 3 件全体の年間平均利用率は約 23% で、5 月には 30% を超えます。
- 中でも「神栖海浜庭球場」は 5 月・7 月・10 月の利用率が高く、「若松庭球場」は 11 月・12 月・1 月の利用率が高くなっていて、それぞれピークが異なります。
- 一方、庭球場は 8 月の利用が最も少なく、「神栖海浜庭球場」と「若松庭球場」でも利用率が 20% を下回っています。
- 庭球場 3 件の中で最も利用率の低い「神之池庭球場」も 11 月の利用率は 20% を超えますが、それ以外は 9 月を底として利用が少ない状況です。
- 陸上競技場 2 件のうち、「神之池陸上競技場」は 4 月（約 54%）を筆頭に 9 月（約 26%）や 10 月（約 32%）といった利用率の高い月がある一方、それ以外の月は利用があまり見られません。
- 「神栖市若松運動場 トラック」は、5 月と 1 月以外は利用のない月も多く、10 月と 11 月は「トラック」・「フィールド」のいずれもほとんど利用されていない状況となっています。



図表 4-24 「庭球場」の月次利用率グラフ（2017年度）

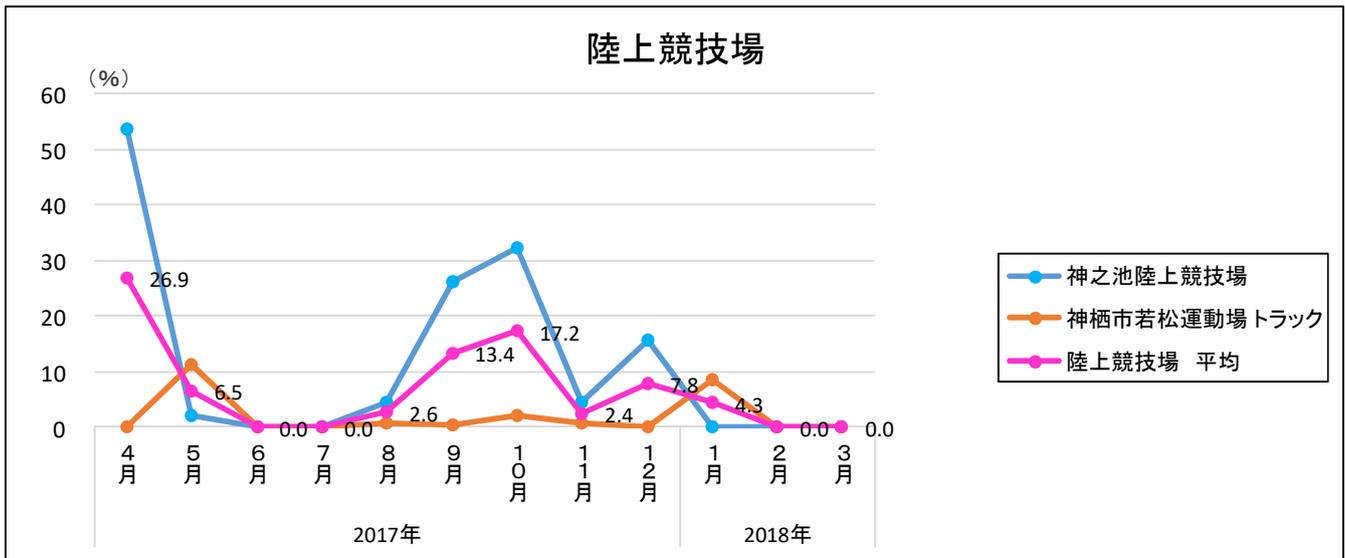


図 4-25 「陸上競技場」の月次利用率グラフ (2017 年度)

		庭球場				陸上競技場		
		神之池 庭球場	神栖海浜 庭球場	若松 庭球場	差分(赤-青) 赤字:最高値 青字:最低値	神之池 陸上競技場	若松地区 神栖市若松 運動場トラック	差分(赤-青) 赤字:最高値 青字:最低値
		神栖中部地区	神栖東部地区	若松地区		神栖中部地区	若松地区	
2017年	4月	13.4	30.0	26.4	16.6	53.8	0.0	53.8
	5月	17.6	46.7	32.5	29.1	1.9	11.1	9.2
	6月	12.0	34.2	29.6	22.2	0.0	0.0	0.0
	7月	11.7	39.9	28.0	28.2	0.0	0.0	0.0
	8月	7.0	18.8	19.0	12.0	4.4	0.8	3.6
	9月	6.2	27.8	19.2	21.6	26.3	0.4	25.9
	10月	7.8	41.7	17.8	33.9	32.4	1.9	30.5
	11月	20.6	30.8	32.2	11.6	4.3	0.5	3.8
	12月	11.8	27.6	38.3	26.5	15.6	0.0	15.6
	2018年	1月	8.5	21.7	31.0	22.5	0.0	8.5
2月		8.4	29.7	25.7	21.3	0.0	0.0	0.0
3月		11.8	30.9	23.4	19.1	0.0	0.0	0.0
年間平均		(%) 11.4	(%) 31.7	(%) 26.9	全体平均 (%) 23.3	(%) 11.6	(%) 1.9	全体平均 (%) 12.3

図 4-26 「庭球場」, 「陸上競技場」の月次利用率表 (2017 年度)

■多目的広場

- 多目的広場 3 件全体の年間平均利用率は約 18%ですが、8月の利用率は約 41%、7月は約 31%です。
- 特に8月は「神栖市海浜運動公園多目的広場」(48%)を筆頭にいずれの施設も利用率が高く、「石塚運動広場多目的広場」はそれ以外にも7月(約 38%)、12月(約 38%)、5月(約 35%)の高い利用率が目立ちます。
- その一方で全体平均利用率は1月から3月にかけては一けた台に落ち込みます。1月・2月は「石塚運動広場多目的広場」が利用されておらず、10月・3月・9月は「若松多目的広場」がほとんど利用されていない状況となっています。

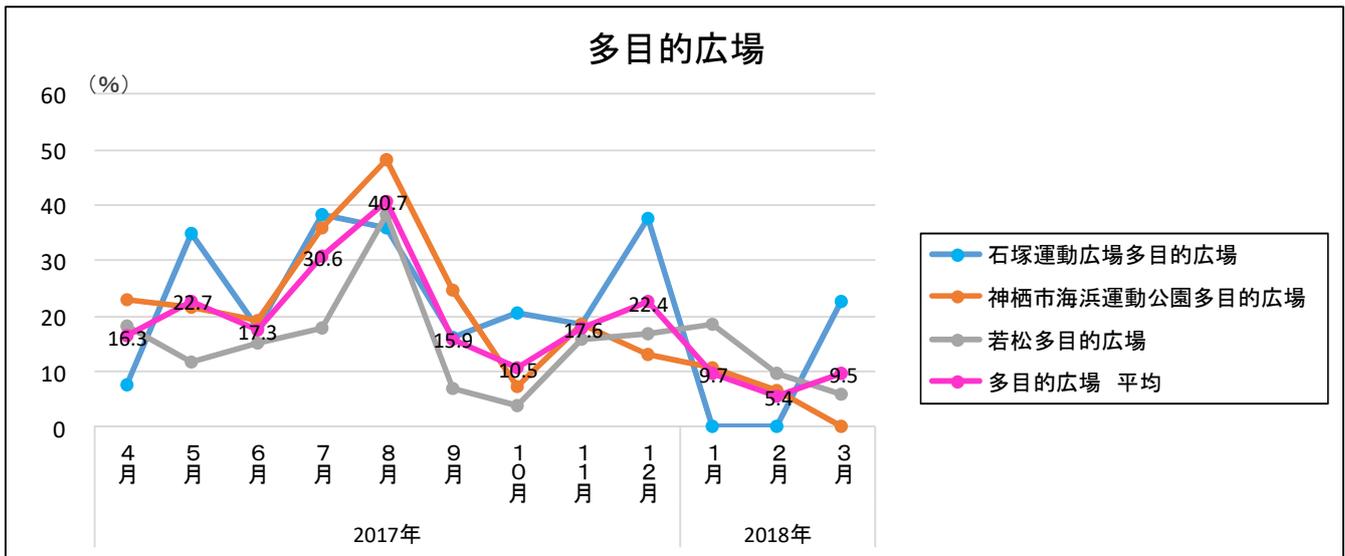


図 4-27 「多目的広場」の月次利用率グラフ (2017 年度)

	月	神栖中部地区	神栖東部地区	若松地区	差分(赤-青) 赤字:最高値 青字:最低値	
		石塚運動広場 多目的の広場	神栖市海浜運動 公園多目的の広場	若松 多目的の広場		
2017年	4月	7.7	22.8	18.3	15.1	
	5月	34.9	21.6	11.5	23.4	
	6月	17.8	19.2	14.9	4.3	
	7月	38.4	35.7	17.7	20.7	
	8月	35.9	48.0	38.3	12.1	
	9月	16.2	24.6	6.9	17.7	
	10月	20.6	7.2	3.7	16.9	
	11月	18.5	18.5	15.9	2.6	
	12月	37.5	13.0	16.7	24.5	
	2018年	1月	0.0	10.5	18.5	18.5
		2月	0.0	6.5	9.7	9.7
		3月	22.6	0.0	6.0	22.6
		(%)	(%)	(%)	全体平均 (%)	
年間平均		20.8	19.0	14.8	18.2	

図 4-28 「多目的広場」の月次利用率表 (2017 年度)

3) 施設の評価

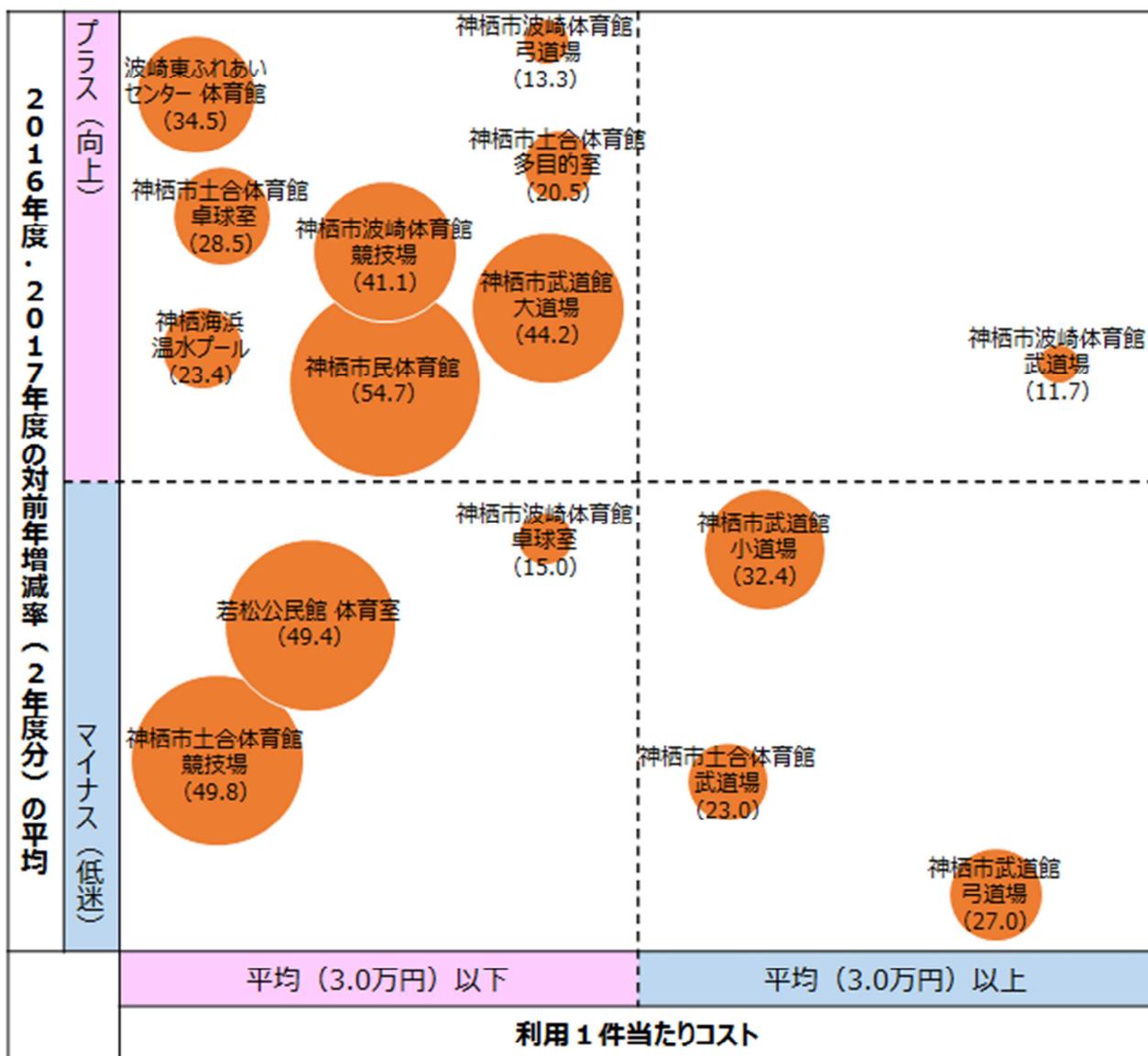
①各施設の評価にあたって

各室（施設）の 2016 年度の対前年増減率と 2017 年度の対前年増減率の平均を縦軸に設定し、それがプラスかマイナスかによって、また横軸には各室（施設）の利用 1 件当たりのコストを設定し、平均より上か下かによって、「A」から「D」の 4 つの象限を定めて各室（施設）をプロットしてみます（図中の円は 2017 年度の平均利用率を大きさで表しています）。

- ・「Aゾーン」は、全般的にコストを抑えつつ、利用が向上または改善していると見られる施設群です。
- ・「Bゾーン」は、全般的にコスト負担は大きいですが、利用向上の可能性が期待される施設群です。
- ・「Cゾーン」は、全般的にそれほど維持管理コストはかかっていないものの、近年は利用も低迷している施設群です。
- ・「Dゾーン」は、全般的には、全般的にコスト負担が大きい上に、近年の利用も低迷している状態にある施設群です。

2016年度・2017年度の 対前年増減率（2年度分）の平均	プラス（向上）	Aゾーン	Bゾーン
	マイナス（低迷）	Cゾーン	Dゾーン
		平均（3.0万円）以下	平均（3.0万円）以上
利用1件当たりコスト			

②施設のプロット評価結果



2017年度の
平均利用率(%)



※波崎東ふれあいセンター 体育館 について
コストデータNA（39室平均の施設数には組入れ処理をした）

図 4-29 屋内向け用途のプロット評価

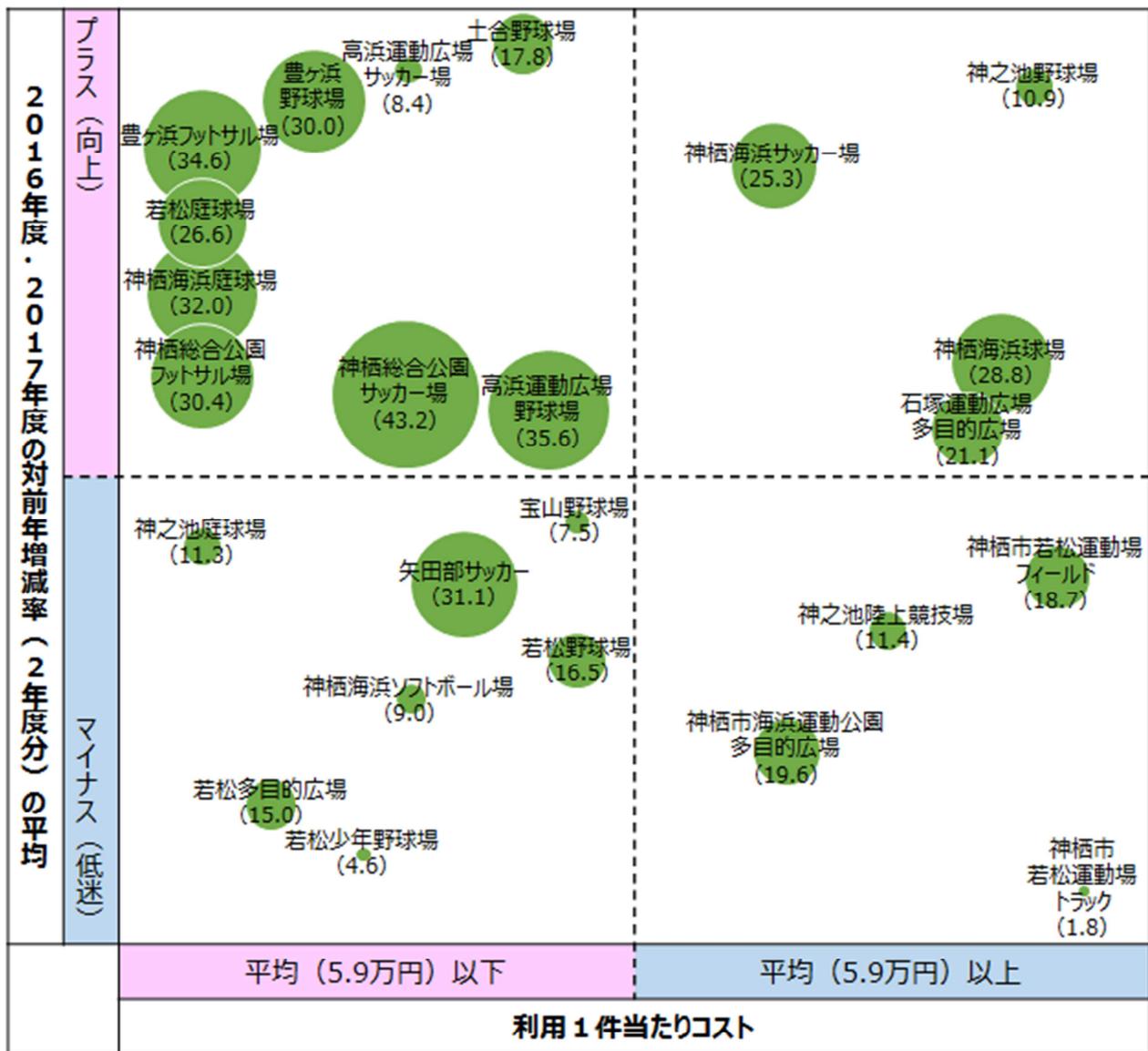


図 4-30 屋外向け用途のプロット評価

③ゾーン別分析結果

■Aゾーン

- Aゾーンの中でも特に年間利用率の高い（例えば30%以上）の施設は、スポーツツーリズム振興をけん引し得る施設として、投資の集中・拡大も視野に入れて利用促進策を検討しながら、いっそうの利用向上に努めることが望めます。

アドレス(市) 2016年度 対経常減価(2年前比)の増減率 マネーストック(億円)	Aゾーン	Bゾーン
	Cゾーン	Dゾーン
	平均(3.0万円)以下	平均(3.0万円)以上
	利用1件当たりコスト	

【現時点での「A+」判定】

(屋内向け用途)		(屋外向け用途)	
✓ 神栖市民体育館	✓ 神栖市波崎体育館 競技場	✓ 神栖総合公園サッカー場	✓ 神栖海浜庭球場
✓ 神栖市武道館 大道場	✓ 波崎東ふれあいセンター体育館	✓ 高浜運動広場野球場	✓ 神栖総合公園フットサル場
		✓ 豊ヶ浜フットサル場	✓ 豊ヶ浜野球場



- また、年間利用率の低い施設は、利用率が上向きであるとはいえ、今後も利用が大きく伸びないような場合には、より積極的な利活用策の検討や、管理・運営のあり方、機能の維持について抜本的な見直しを検討することも求められます。

【現時点での「A-」判定】

(屋内向け用途)		(屋外向け用途)	
✓ 神栖市土合体育館 卓球室	✓ 神栖市土合体育館 多目的室	✓ 若松庭球場	✓ 高浜運動広場サッカー場
✓ 神栖海浜温水プール	✓ 神栖市波崎体育館 弓道場	✓ 土合野球場	



■Cゾーン

- Cゾーンの中でも年間利用率の比較的高い（例えば30%以上）の施設は、必要に応じて投資の拡大も検討しながら、利用向上に努めることが望めます。

施設別 利用状況 （2017年度）	Aゾーン	Bゾーン
	Cゾーン	Dゾーン
平均（3.0万円）以下	平均（3.0万円）以上	
利用1件当たりコスト		

【現時点での「C+」判定】

（屋内向け用途）	（屋外向け用途）
✓ 神栖市土合体育館 競技場 ✓ 若松公民館 体育室	✓ 矢田部サッカー場



- また、年間利用率の低い施設は、利用も低迷していることから、ニーズに応じた柔軟かつ大胆な対応や多面的な利用方法なども視野に入れて、施設利用の活性化を図ることが求められます。運営コストの負担を増やせない、もしくは投資に見合うだけの利用改善が図られない場合には、学校の体育施設も含めた多様なサービス供給のあり方なども視野に入れて、立地条件（地域の環境）次第で適切な機能の統廃合や転用などを検討していくことも考えられます。

【現時点での「C-」判定】

（屋内向け用途）	（屋外向け用途）
✓ 神栖市波崎体育館 卓球室	✓ 若松野球場 ✓ 若松多目的広場 ✓ 神之池庭球場
	✓ 神栖海滨ソフトボール場 ✓ 宝山野球場 ✓ 若松少年野球場



■Dゾーン

- Dゾーンにおいては、年間利用率の比較的高い施設（例えば20%前後）を中心に、まずはコストを抑えた効率的な運営と、同時並行で利用ニーズの把握・検討に努めながら、抜本的な対策を講じることが求められます。
- 今後のニーズ創出が見込みにくい、もしくは現状でも年間利用率が低く改善の兆しが見えないような施設は、民間事業者も含めたサービス供給のための役割分担なども視野に入れて、必要に応じて機能の統廃合や転用などの適切かつ効果的な対応を図ることが求められます。

アフェス(市) 2016年度 対症補償(2017年度) の状況	Aゾーン	Bゾーン
	Cゾーン	Dゾーン
	平均(3.0万円)以下	平均(3.0万円)以上
	利用1件あたりコスト	

【現時点での「D」判定】

(屋内向け用途)	(屋外向け用途)
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 神栖市武道館 小道場 ✓ 神栖市武道館 弓道場 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 神栖市海浜運動公園多目的広場 ✓ 神栖市若松運動場 フィールド ✓ 神之池陸上競技場
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 神栖市土合体育館 武道場 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 神栖市若松運動場 トラック



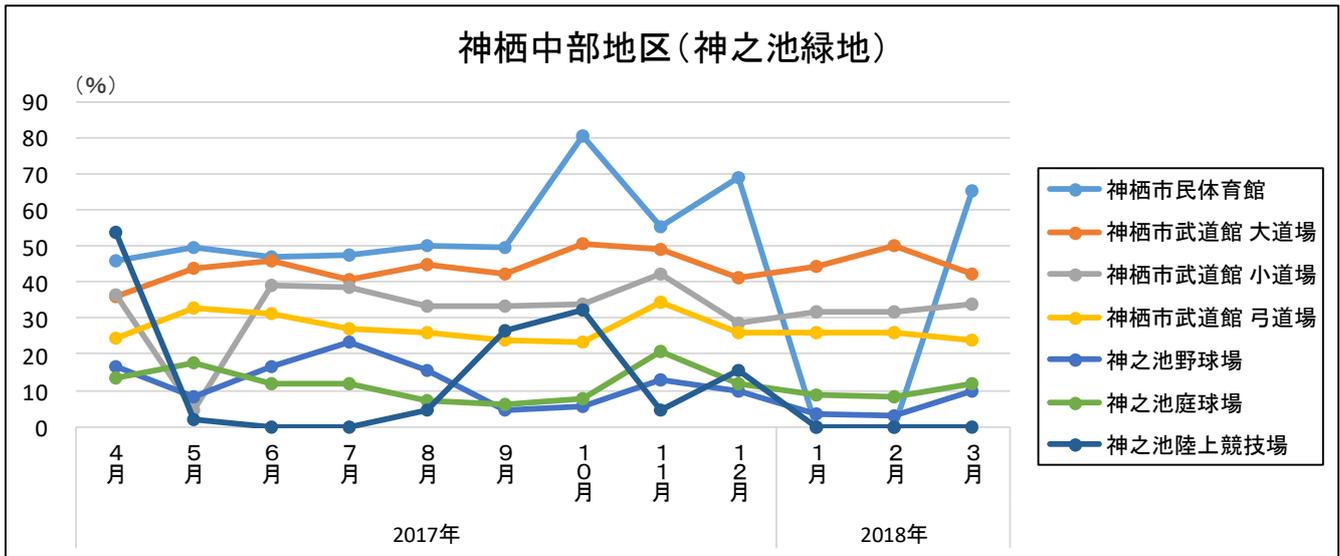
④地区別にみた各施設のあり方(案)

これまでの調査・検討結果などを踏まえ、各地区の施設の今後のあり方について、考え方を整理します。

凡例	神栖中部地区	神栖東部地区	若松地区	矢田部地区	波崎地区
	<神之池緑地> ● 神栖市民体育館 ● 神栖市武道館 大道場 ▲ 神栖市武道館 小道場 ▲ 神栖市武道館 弓道場 □ 神之池野球場 ◇ 神之池庭球場 ▲ 神之池陸上競技場 ※ 神之池パターゴルフ場 (未判定) <高浜運動広場> ● 高浜運動広場野球場 ○ 高浜運動広場サッカー場 <その他> ■ 石塚運動広場多目的広場	<海浜運動公園> ○ 神栖海浜温水プール ■ 神栖海浜球場 ◇ 神栖海浜ソフトボール場 ■ 神栖海浜サッカー場 ● 神栖海浜庭球場 ▲ 神栖市海浜運動公園多目的広場 <神栖総合公園> ● 神栖総合運動公園サッカー場 ● 神栖総合運動公園フットサル場	<若松緑地> ◆ 若松公民館 体育室 ◇ 若松野球場 ◇ 若松少年野球場 ◇ 若松多目的広場 <若松運動場> ▲ 神栖市若松運動場 フィールド ▲ 神栖市若松運動場 トラック ○ 若松庭球場 <その他> ◇ 宝山野球場	<土合運動公園> ◆ 神栖市土合体育館 競技場 ▲ 神栖市土合体育館 武道場 ○ 神栖市土合体育館 卓球室 ○ 神栖市土合体育館 弓道場 ○ 土合野球場 <その他> ◆ 矢田部サッカー場	<豊ヶ浜運動公園一帯> ● 波崎東ふれあいセンター 体育館 ● 神栖市波崎体育館 競技場 □ 神栖市波崎体育館 武道場 ○ 神栖市波崎体育館 弓道場 ◇ 神栖市波崎体育館 卓球室 ● 豊ヶ浜野球場 ● 豊ヶ浜フットサル場

図 4-31 全施設の評価一覧（神之池パターゴルフ場を除く）

■ 神栖中部地区の施設のあり方



※神栖市民体育館は、1月と2月は改修工事のため利用なし

図 4-32 神栖中部地区（神之池緑地）の施設の月次利用率（神之池パターゴルフ場を除く）

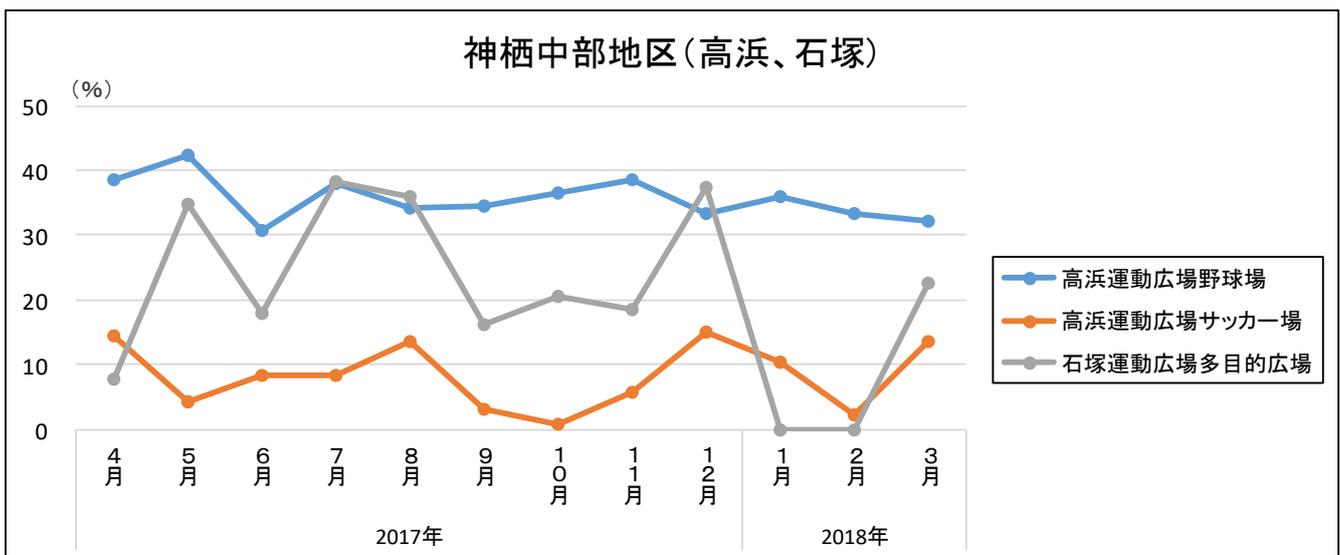


図 4-33 神栖中部地区（高浜、石塚）の施設の月次利用率

- 神之池を中心に個性的な景観と快適な環境を備えた神之池緑地の施設群は、都市としての象徴性の高い空間にあり、同じ神栖中部地区に2019年6月に新たにオープンする「かみす防災アリーナ」との連携も図りやすい立地です。
- 屋内向け用途の「神栖市民体育館」や「神栖市武道館（大道場、小道場）」は、施設利用率も高く、「かみす防災アリーナ」と合わせて屋内型競技・イベントなどでの誘客の核となることが期待されますが、両施設とも耐震性向上・大規模修繕などが課題となっていることから、時期を合わせた複合施設としての建替えなども視野に入れて、「かみす防災アリーナ」と差別化した個性ある機能形成を図っていくことが望まれます。
- 屋外向け用途は、いずれも利用率の低迷が目立つ施設であり、利用促進のためには施設の機能強化と適切なプロモーションが必要となります。

- 例えば「神之池野球場」は、同じ神栖中部地区の「高浜運動広場野球場」よりも圧倒的に利用率が低い（30ポイント以上の開きがある月もある）のですが、この「高浜運動広場野球場」の機能を神之池緑地に集約し、利便性の高い野球場として再整備を図ると共に、「高浜運動広場」については、「石塚運動広場」とともにサッカー競技機能の充実を図り、サッカーに特化させることも考えられます。
- また、全体で3件の庭球場のうちの一つである「神之池庭球場」は、他の施設と比べて最も利用率が低いことから、神之池緑地周辺の施設再編の一環として、庭球場への投資は「神栖海浜庭球場」や「若松庭球場」に集約させることも一つの方策と考えられます。
- 「神之池陸上競技場」は利用率の低い施設ですが、もう1件の「神栖市若松運動場トラック」はさらに利用率が低迷しています。陸上競技場のフィールドとトラックを別々に利用することができないという施設特有の課題に対しては、陸上部の合宿誘致、陸上競技大会、健康イベントなど、フィールドとトラックを両方使用する方策を企画することが望まれます。さらに、神之池陸上競技場に隣接する神之池園路は1周約5kmと駅伝部などの合宿での活用も見込まれることから、神之池陸上競技場を神之池園路と融合して利用できる施設としての整備も考えられます。

■ 神栖東部地区の施設のあり方

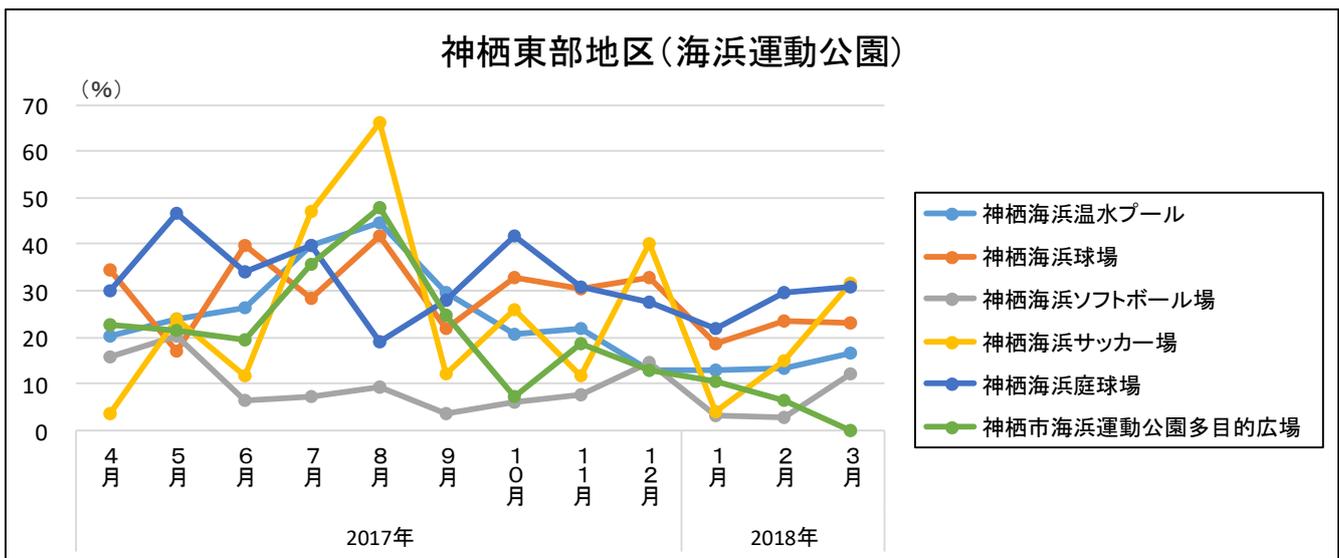


図 4-34 神栖東部地区（海浜運動公園）の施設の月次利用率

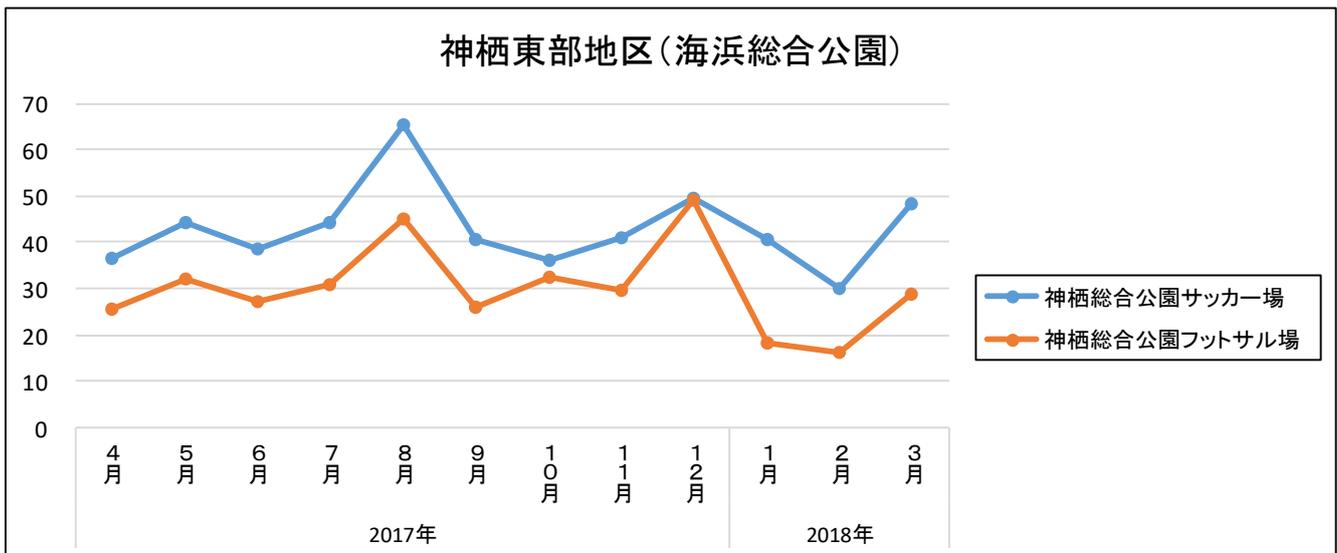


図 4-35 神栖東部地区（海浜総合公園）の施設の月次利用率

- 「海浜運動公園」と「神栖総合公園」の近接する神栖東部地区のスポーツ施設エリアは、プールの他はさまざまな屋外競技の施設が集積しています。
- 「神栖総合公園」の「サッカー場」と「フットサル場」は、年間を通して比較的利用率が高めで、より多彩な利活用の可能性が期待できること、広大な未整備地があることから、サッカーを中心としたスポーツツーリズムの新たな展開に向けて、設備などの充実や新たなサッカー場の整備、神栖市での合宿実施団体間の交流を支える機能などを備えていくことなどが望まれます。
- 「海浜運動公園」においては、「神栖海浜サッカー場」は、これと連携してサッカー交流が盛り上がるよう設備更新などを図っていくと共に、「神栖海浜庭球場」への投資集中により、テニス競技の拠点としての機能発揮に向けた施設拡充を図っていくことなどが望まれます。
- 「神栖海浜温水プール」は、「かすみ防災アリーナ」の温水プールの利用状況などを踏まえつつ、高齢者や小中学生向けなど、新たな利用シーンを念頭に置いた機能構築と、今後の老朽化の状況に応じた計画的な改修などの検討が必要になると考えられます。
- 「神栖海浜球場」の利用率は平均以上を維持できているものの築33年が経過していること、BCリーグに参入した茨城アストロプラネッツが公式戦を開催することになったことなどを踏まえ、最新設備を整えたシンボルとなる野球場への進化により、新たな需要拡大を図る方策も有効と考えます。

■若松地区の施設のあり方

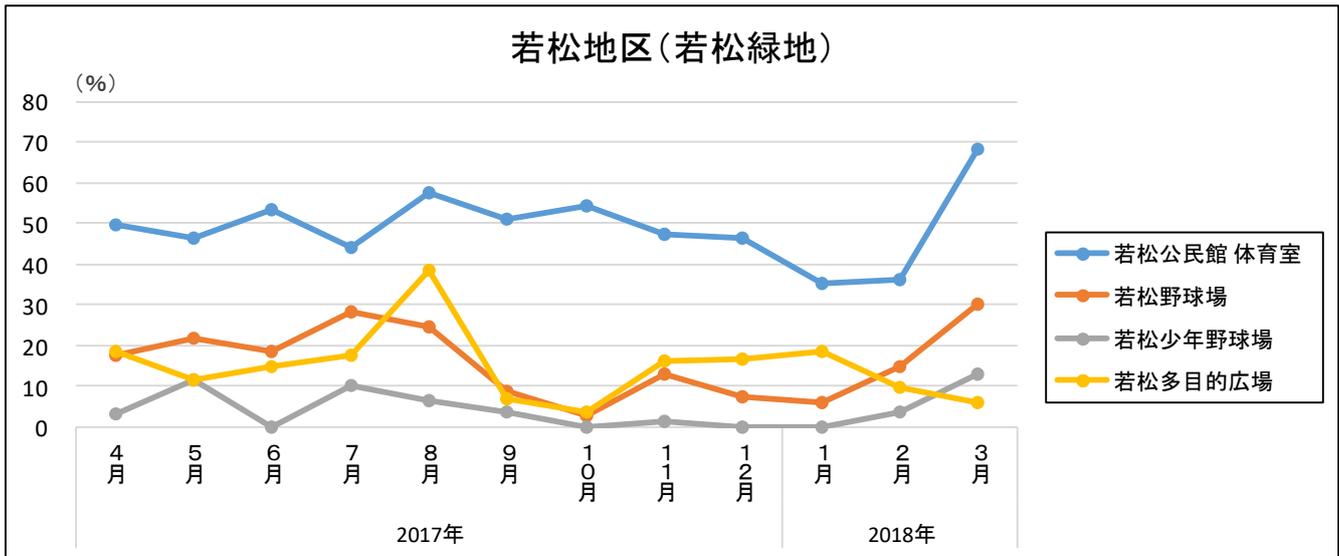


図 4-36 若松地区（若松緑地）の施設の月次利用率

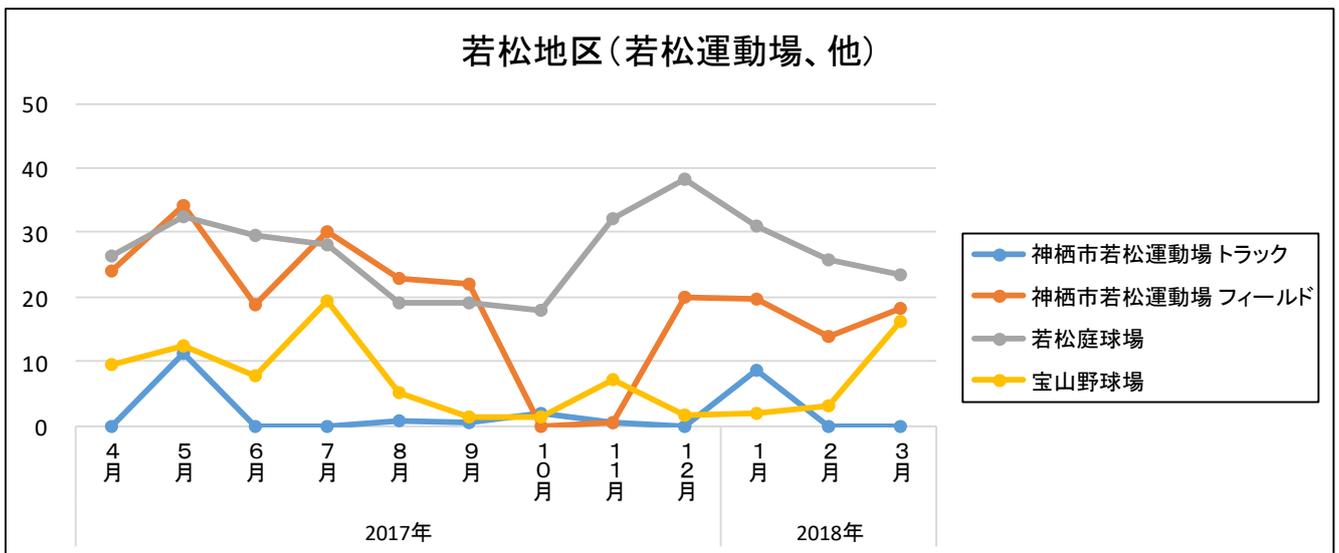


図 4-37 若松地区（若松運動場，他）の施設の月次利用率

- 若松地区の公共スポーツ施設は、利用率や効率性などにおいて課題を抱えた施設が多いと考えられます。
- 屋外向け用途では、野球場や陸上競技場などいずれも利用率が芳しくない状況です。いずれも老朽化が進んでおり、水はけの悪い野球場を統合して設備の整った野球場に転換していくか、また、陸上部の合宿誘致や陸上競技大会などを前提とし、老朽化している陸上競技場のタータン張替、施設の改修や未利用地へのサブグラウンドの整備を進めるか、個別に施設の課題に対応することも重要ですが、野球に特化させるなど、地区の特徴を出していくことも視野に入れるべきと考えます。
- 「若松庭球場」は規模が小さいこともあって利用率は高めですが、機能の拡充・設備の充実などによってより利用者層を発掘することができると考えられます。
- 「若松公民館体育室」は比較的利用率が高めで安定しており、伸びる余地も感じられますが、築40年が経過しており、耐震性向上・大規模修繕などの必要性が高まっています。これを機に、若松地区

における屋内・屋外向け用途の再編や市域全体を見据えたスポーツツーリズム振興の観点から、新たなサービス提供の可能性を検討し、建替えも含めた複合機能の整備なども視野に入れた計画づくりが求められています。

■矢田部地区の施設のあり方

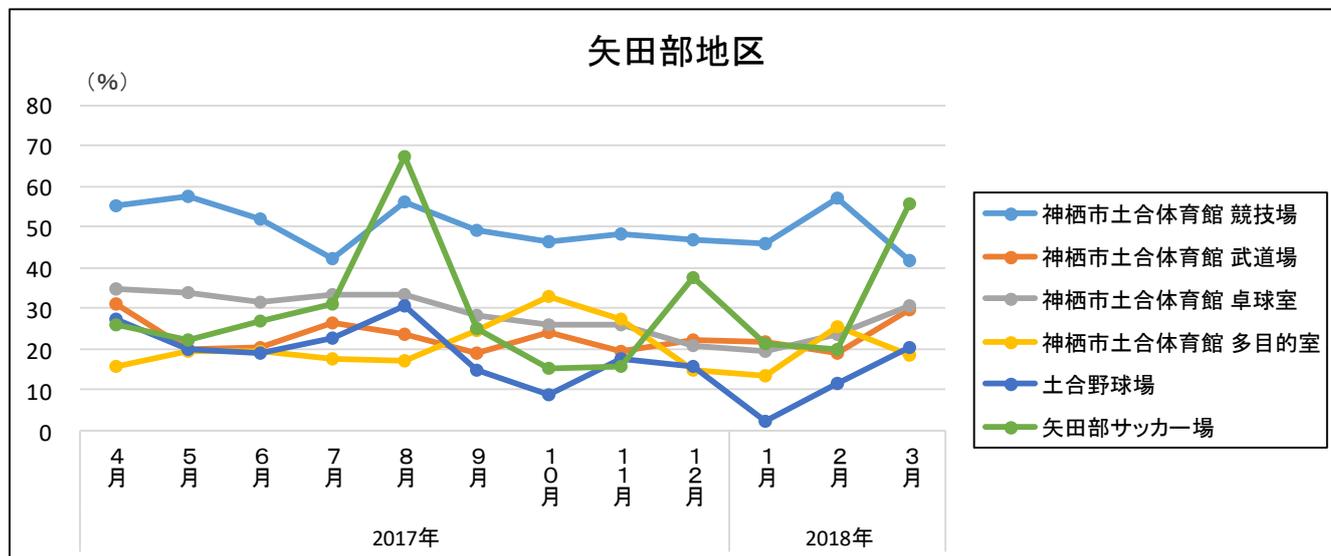


図 4-38 矢田部地区の施設の月次利用率

- 比較的新しい都市的土地利用の進行も見られる矢田部地区では、多様な生活主体に応じたスポーツ施設の提供が必要になると思われます。築44年が経過する「神栖市土合体育館」は、耐震補強は実施済みですが、多様化するニーズにも柔軟に対応したサービス提供拠点としての機能強化は、引き続き重要になると考えられます。
- 「土合野球場」や「矢田部サッカー場」は、利用率の高い月がある一方で低迷している月も見られますが、他の野球場・サッカー場の月次利用率と比べて伸ばせる余地はあるものと考えられることから、利便性向上などに向けた設備充実などを図っていくことが求められます。

■波崎地区の施設のあり方

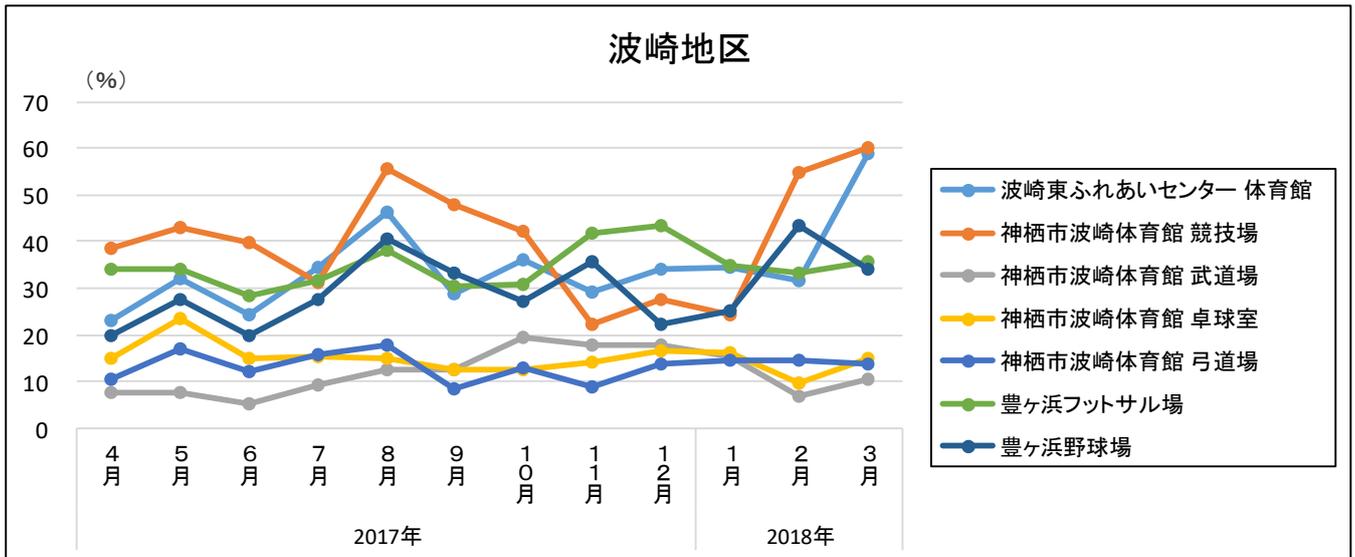


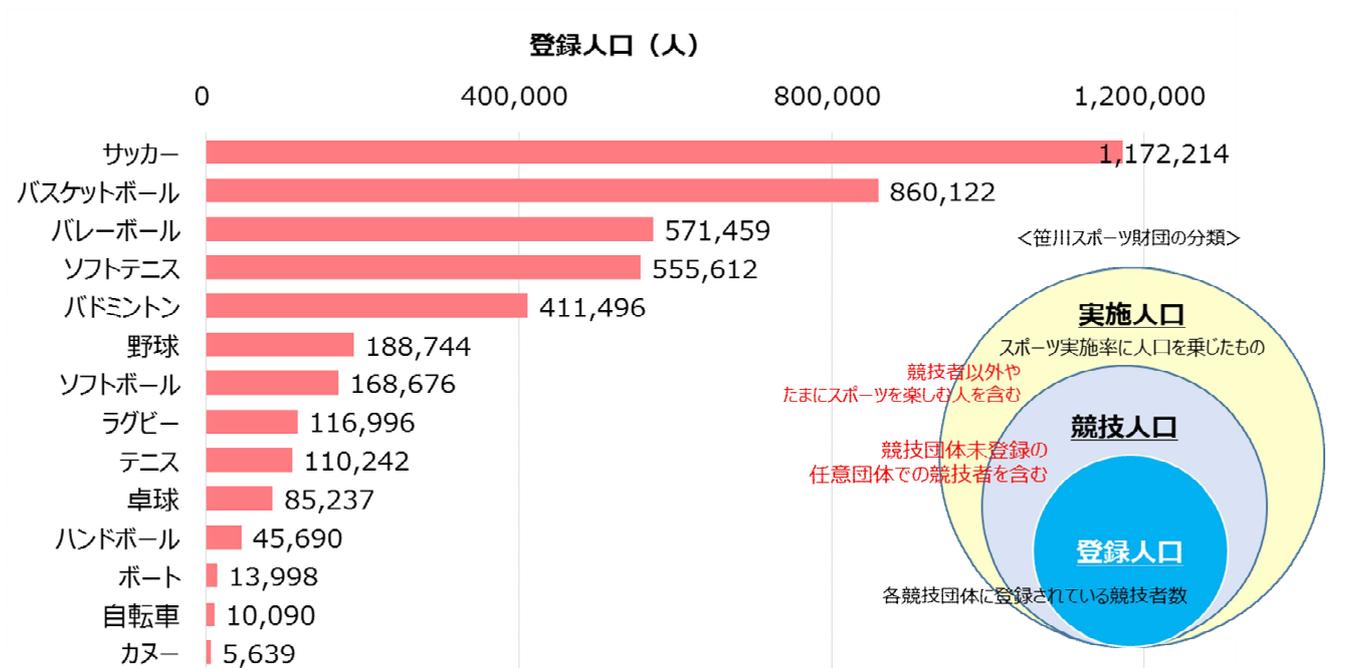
図 4-39 波崎地区の施設の月次利用率

- 波崎地区の施設群は、銚子方面からの玄関口にあたる立地環境のもと、神栖中部・東部地区と対を成す南側に位置するスポーツ交流の核としての一翼を担うことが期待されます。
- 「豊ヶ浜運動公園」の野球場・フットサル場はいずれも利用率が比較的高く、他地区の施設で落ち込む時期でも利用が見られることから、新たな合宿・大会などのニーズを受け入れ、神栖市全体の誘客を拡大していけるよう、より機能の拡充を図ることが求められます。
- 「神栖市波崎体育館」の「競技場」については比較の利用が向上していますが、平準化を図ることが課題であり、その他の施設（柔道場、弓道場、卓球場）についてはすべからく利用が低迷しています。施設全体としては築35年が経過しており、老朽化や設備の劣化などに備えた対策の一環として、機能構成の見直しも含めて屋内向け用途のあり方を検討し、新たな需要創造を図っていくことも一つの方策と考えられます。

(3) 考察：誘客テーマに即した利活用方策

本節では、第3章の誘客テーマの設定で提示した「スポーツ合宿の誘致」と「大会開催」について、サッカー、野球、テニスに限定して利活用方策を検討します。

これら3種目の登録人口をみるとサッカーが突出しています。登録人口が多いということは組織化されていることを示しており、交流人口を集めやすいベースがある競技種目とみることができます。



	サッカー	野球	ソフト ボール	テニス	ソフト テニス	ラグビー	ハンド ボール	バスケット ボール	バレー ボール	バドミン トン	卓球	自転車	カヌー	ボート
(公財) 高等学校体育連盟 2018.8月現在加盟人数	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(公財) 日本スポーツ協会 2017年度スポーツ少年団員数		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(公財) 笹川スポーツ財団 中央競技団体現況調査2016年度	○	59,083 チーム	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
(公財) 全日本大学野球連盟 2018.5.1現在部員数		○												
(公財) 日本高等学校野球連盟 2018.5月末加盟校部員数		○												

図 4-40 競技種目別のスポーツ人口(登録人口)

また、施設の種別別平均利用率をみると、天候に左右されない屋内施設、特に体育館で高く、屋外施設ではフットサル場を筆頭に、上記3種目ではサッカー場、庭球場、野球場の順となりました。グラウンドやコートが影響していると思われます。サッカー場については、養生期間が必要な天然芝のグラウンドより、人工芝のグラウンドのほうが利用率を上げやすくなりますが、野球場は土を使用しているため、一旦、コンディション不良になると、整備や回復までに時間がかかり、使用時間を減らさざるを得ない状況にあります。

(次頁、図 4-41 施設の種別別／平均利用率(2017年度)(再掲) を参照)

		n=	平均 利用率
全体		39	24.6
競技別	屋内計	15	31.2
	体育館	5	45.9
	卓球場	2	21.8
	道場・柔道場	4	27.8
	弓道場	2	20.2
	多目的室	1	20.5
	プール	1	23.5
	屋外計	24	20.5
	サッカー場	5	25.3
	フットサル場	2	32.5
	庭球場	3	23.3
	野球・ソフトボール場	9	17.9
	多目的広場	3	18.6
	陸上競技場	2	6.6

図 4-41 施設の種類別／平均利用率(2017 年度)(再掲)

1) サッカーの合宿誘致と大会開催

まず、これまでの調査報告内容のポイントをまとめるとともに、スポーツ合宿や大会誘致に関わる事業者ヒアリングから関連するコメントを列挙します。

①利用ニーズの調査より

■新規顧客(競技者中心)

- 神栖・波崎は、3年以内のサッカー合宿実施第3位の位置づけ（第1位の秩父，第2位の九十九里に次ぐ箱根と同率の第3位，高校の課外クラブ，大学の体育会やサークルを中心に合宿を実施）
- スポーツツーリズムのパンレットを見た上でのサッカー団体の合宿利用意向は7割に達しており，4割前後の野球とテニスを大きく引き離している
- 第1位の秩父より神栖・波崎のほうが，合宿地決定理由で上回る項目が多い（具体的に評価されており，優位性がある）
 - ・ 使いなれているスポーツ施設
（リピート利用が浸透している）
 - ・ 合宿に専念できる環境
（勝つチーム作りに向いている）
 - ・ 「安い・近い・短い」立地条件
（合宿地決定理由の上位2項目：移動距離が近い・時間が短い，交通費が安い，の評価が高い）
- 競技環境に関する上位3項目（整備・清掃の行き届いた，安全に配慮したグラウンドの提供，体調不良・ケガなどへの対応）と屋外施設のコンディション不良時の代替施設のアレンジ・手配などは，

既存顧客（指導者中心）とも共通して、合宿地の提供する魅力とみている

■既存顧客(指導者中心)

- 指導者は効果的な食事の質・量・摂取時間に対する対応，競技者は使いやすく清潔な更衣室・シャワールームの提供，交流試合・練習試合のアレンジ・手配に対する魅力度も高い

■宿泊施設と利用顧客の比較

- 宿泊施設の顧客ニーズが高いと認識していることとはズレがある
(食事への対応，更衣室・シャワールームの提供への対策が必要)

②スポーツ施設の現況把握より

- サッカー場は築年数平均 31.4 年よりも比較的新しい施設が多い（5 施設すべて 21 年以下）
- フットサル場は 2 施設とも築 7 年とさらに新しい
- フットサル場は人工芝のため維持管理がしやすく，利用 1 件当たりコストが低く抑えられている

③スポーツ合宿や大会誘致に関わる事業者ヒアリングより

■旅行会社の大会誘致事業担当者(以下，旅行会社A氏)

- 国際大会などの大型大会は各競技団体が数年前から準備を始めて実施に結び付けるが，その情報をキャッチすることが重要
- 誘致したい自治体は直接，競技団体とのつながりをもつべき，県レベルで教員が役員を担う場合は体育の教員がほとんどで，先輩後輩のつながりで大会誘致の相談や決定が決まることが多いとみる
- 強豪校の対戦マッチを設定できると大会が盛り上がる（例：石川県七尾市のサッカー大会，星稜高校など）
- 国体の翌年に大会を開催する傾向が出てきている
- 学校への営業は修学旅行の担当が補足で相談を受ける場合もあるが，スポーツ合宿は営業テーマではない

■サッカーの合宿と大会の企画プロモート事業担当者(以下，サッカー関連企画会社B氏)

- 3 月，8 月が合宿や大会のメインシーズンになるが，近年グラウンド，宿泊施設の確保が年々難しくなっている
- 秋や閑散期はミドル層（40 代，50 代）の需要を取り込む方策を検討中（ミドル層向けの大会がないが，サッカー人口は多い）
- 近年の合宿の傾向は，固定客より新規客の問合せが多い
- 1 年から 3 ヶ月前の申込みが最も多いが，グラウンドなどの公共スポーツ施設の予約はその時期にできず，確保が直前になる（公共施設は市民の先行予約がある）
- 神栖市の場合は，真夏の気温が気になる（小中学生の熱中症対策と気温管理，日本サッカー協会は 35℃以上の環境での練習や大会を禁止している）
- 新規の合宿・大会の誘致では，天然芝は傷みやすく定期的なメンテナンスが必要になり連日使用ができない，むしろ人工芝グラウンドのクオリティと宿泊施設の機能サービスのレベルが重要
(例：鹿島ハイツスポーツプラザは知名度があり充実している)

■大学生向けの合宿・大会・イベントの企画プロモート事業担当者(以下、大学スポーツ関連企画会社C氏)

- 関東、関西エリアを中心に年間 80 本の合宿・大会・各種スポーツ企画をプロモートしている、近年、関西と九州エリアで需要が増加
- 神栖市（波崎）の利点は、年間通して温暖（雪が降らないのでグラウンドやコートの整備が不要、利用機会が安定的に確保できる）、首都圏から近い、ということ
- 神栖市の場合、サッカー以外では、テニス、ラクロス、アメリカンフットボールの企画プロモートが多い
- 神栖市（波崎）の場合、サッカーのイメージが強いことが強みでもあり、弱みでもある
- 合宿の種類にはスポーツ、音楽、文化があるが、（団体スポーツの）スポーツ競技人口が減少傾向（バドミントン、卓球は増加傾向、アルティメット（フライングディスク）も近年注目されている）
- グラウンド、宿泊施設がよい環境にあり、そのチームに合っていれば必ずリピートにつながっている、万全の整備と受入ができる宿泊施設が優先される
- 神栖市の課題は「医療施設の脆弱さ」で、市場拡大のネックになっている
- コンビニエンスストアの充実が合宿地の重要なポイント（合宿の支出先は殆どがコンビニエンスストア）
- 公共スポーツ施設の予約が取りにくい、宿泊施設との連携・調整は行っているが受入体制と受入人数の余力がいつも心配になる
- 業務提携の可能性はある（公共グラウンド空き情報の提供、複数大学の合同合宿開催の調整、特定施設の合宿利用など）

以上を総括しますと、課題の一つめは、「知る人ぞ知るサッカー合宿の神栖」に留まっていることです。

アマチュアスポーツ合宿の中心地「波崎地区」、プロチーム、ナショナルチームの練習合宿拠点としての「神栖地区」の両輪をもつことにより、ブランド力を向上させることにつながると考えます。

課題の二つめは、システムや体制面の整備です。公共スポーツ施設のスムーズかつ3ヶ月以上前に予約できる予約システム、宿泊施設の受入体制（連携）と提供サービスの質的な統一、医療体制の整備などを進める必要があります。

課題の三つめは閑散期の対策で、ミドル層、団体OBを取り込む合宿・大会の企画は有効な手段となりそうです。但し、観光の要素が重要になってきます。

サッカーを「する機会」だけでなく「みる機会」も交流人口を増やす上では重要ですが、アピール力のある大会誘致には、競技団体とのパイプを神栖市独自でもつことが肝要です。また、各種スポーツイベントの企画プロモートを行う事業者との業務提携があるとすれば、特定のターゲットを広げるための企画であったり、アプローチルートの開拓であったり、特定の施設を選んだ企画プロモートであったり、企画のための助成であったりと、包括的というより目的が限定的なものになりそうです。

同時に、サッカー以外の競技種目（屋外施設だけでなく屋内施設を利用する登録人口の多いもの：バスケットボール、バレーボールなど）の合宿・大会開催を活性化させることを準備する時期でもあると考えます。

さらに、2019年には「いきいき茨城ゆめ国体」が開催されますが、神栖市での開催種目であるカヌー、テニス、グラウンド・ゴルフについては、国体開催が合宿や大会誘致の好機となるものと思われます。これらの種目についても誘客に向けた周知や施設の整備などを進めることが効果的であると考えます。

2) 野球の合宿誘致と大会開催

①利用ニーズの調査より

■新規顧客(競技者中心)

- 神栖・波崎は、3年以内の野球合宿地としては存在感がない
- スポーツツーリズムのパンレットを見た上での合宿利用意向は、サッカーの7割と比べて4割強とかなり下回る
- 競技環境に関する上位3項目（整備・清掃の行き届いた、安全に配慮したグラウンドの提供、体調不良・ケガなどへの対応）と屋外施設のコンディション不良時の代替施設のアレンジ・手配など以外に、効果的な食事の質・量・摂取時間に対する対応の魅力が高いことが野球の特徴となっている
- また、使いやすく清潔な更衣室・シャワールーム、洗濯・乾燥設備の提供についても合宿地の魅力的な機能サービスと考えられている

■宿泊施設と利用顧客の比較

- 宿泊施設の顧客ニーズが高いと認識していることと利用者が魅力を感じる機能サービスではズレがある（食事への対応、更衣室・シャワールームの提供への対策が必要）

②スポーツ施設の現況把握より

- 9施設（野球，少年野球，ソフトボール）のうち7施設が築30年以上を迎え，そのうちの4施設は築40年を超えている（サッカー場，フットサル場，テニス場に比べて，築年数が長い施設が多い）
- 大会利用が比較的多いのも野球の特徴
- 利用1件当たりが高コストの施設であり，かつ6施設で利用率が平均を下回る

野球場は合宿・大会誘致の前に、老朽化，高コスト，低利用率の三つ巴の課題（悪循環）を抱えています。解決策としては改修で凌ぐよりも新球場を作ることが相応しいように思われます。というのも、競技者が求める競技環境のうち、整備・清掃の行き届いた、安全に配慮したグラウンドではない状況であるからです。

劣化状況は屋外施設の中で競技場別にみて最も進んでおり（第1章）、現地で調査員が確認した劣化状況の写真記録でも、改修が終わった土合野球場を除いて、バックネット、ベンチ、スコアボードの老朽化やグラウンドの歪みなど劣化の度合いがかなり進んでいます。

一方で、更衣室・シャワールームなどの付帯施設に対するニーズも高く、利用満足度（気持ちよく利用できることでの）を高めるためにも機能サービスの強化を図る必要が出てきています。

3) テニスの合宿誘致と大会開催

①利用ニーズの調査より

■新規顧客(競技者中心)

- 神栖・波崎は、3年以内のテニス合宿地としての存在感は（野球ほどではないが）弱い
- スポーツツーリズムのパンレットを見た上での合宿利用意向は、サッカー、野球よりも低く4割弱
- 競技環境に関する上位3項目（整備・清掃の行き届いた、安全に配慮したグラウンドの提供、体調不良・ケガなどへの対応）と屋外施設のコンディション不良時の代替施設のアレンジ・手配など以外に、使いやすく清潔な更衣室・シャワールームの提供や宿泊施設とスポーツ施設がパッケージ化

された合宿プラン提供の魅力度が高いことがテニスの特徴となっている

- また、更衣室・シャワールーム、洗濯・乾燥設備についても魅力点となっている

②スポーツ施設の現況把握より

- 築年数が45年の神之池庭球場は利用率が1割台で他の9年、18年の2施設の半分以下に留まる
- 庭球場の利用1件当たりコストは他の競技種別施設よりも極端に低く、維持しやすい特徴あり（39室のうち下から3・4・6位）
- 庭球場3施設は96～98%が市内利用、91～99%が個人利用となっている

テニスの合宿誘致と大会開催を行うにあたっては、合宿地の実績が第1位の白子を初めとして上位の合宿地との差別化点、優位点は何かを精査する必要があると考えます。

現状では市民利用がほとんどを占めており、利用率（全室平均24.6%）は若松庭球場27%（築9年）、神栖海浜庭球場32%（築18年）、神之池庭球場11%（築45年）とバラツキがみられます。

交流人口を増やすことが利用率の向上につながるようにするには、各施設独自の集客プログラムを作るだけでなく、市を挙げたイベント開発や、相互連携により大人数の団体にも少人数の団体にも対応できるような柔軟な利用を可能にする仕組みが必要です。

4) 3競技に共通して

前述の3競技はいずれも屋外で行うもので、グラウンド・コートのコンディション不良時の対応が利用側から望まれています。

コンディション不良時の代替施設の手配・提供は共通する機能サービスの課題であり、満足度向上のポイントでもあります。

例えば、体育館の有効活用を考え、空き時間の利用促進や機能強化（トレーニング設備とプログラムの提供、体力計測と栄養面を含むアドバイスの提供など）を図ることも重要と考えます。

さらに、競技種目別に施設の利活用のあり方を模索することにとどまらず、複数の競技種目が集積する場のあり方も検討する必要があります。誘客拠点の魅力づくりには、前述の屋外競技のグラウンド・コートのコンディション不良時の対応だけでなく、維持管理の効率化及び更衣室・シャワールームや休憩スペースなどの施設が提供する機能サービスの質的向上が欠かせないからでもあります。

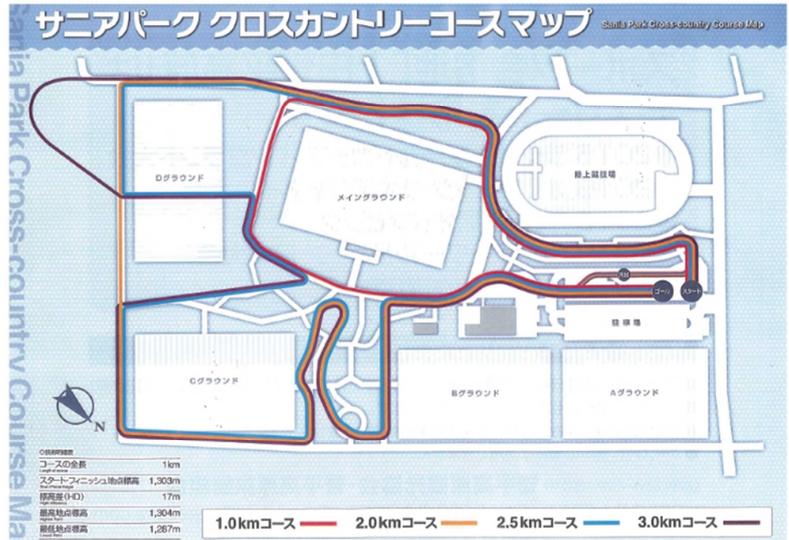
例えば、サッカー場、野球場、屋内練習場、テニスのクラブハウス（全競技の共用スペースにもなる）などを併設した総合運動公園としての機能強化が考えられます。

ラグビーの聖地、菅平の施設を分析してみますと、総合運動公園の機能強化の方向性が示唆されています。

（次頁、**図 4-42 総合運動公園：菅平スポーツランド サニアパーク菅平（上田市）** を参照）



菅平高原 総合運動公園施設
菅平高原スポーツランド
— サニアパーク菅平 —



運動施設

メイングラウンド 1面: 芝生スタンド 5,000 人収容

サブグラウンド 4面

陸上競技場 1面: 400mトラック: 8コース
第3種公認取得, 芝生スタンド 4,000 人収容
ランニングコース(1周 650メートル)
マレットゴルフコース(芝生, 18ホール)

付帯施設 (RC構造 地下1階 地上2階建て)

管理センター : レセプションルーム, 更衣室, シャワー室, 医務室, 事務室など
駐車場 : 普通車 279 台 大型車 10 台

1999年(平成11年竣工)



出典 : <http://www.city.ueda.nagano.jp/ssangyo/tanoshimu/sports/taikushisetsu/saniapark/index.html>
http://sugadaira.com/?page_id=236 http://sugadaira.com/?page_id=487

図 4-42 総合運動公園: 菅平スポーツランド サニアパーク菅平(上田市)

5) インドアスポーツへの取り組み(かみす防災アリーナ竣工)

2019年6月1日に、「かみす防災アリーナ」が竣工を迎えます。それに伴い、インドアスポーツを新たな誘客競技種目として強化することが可能になります。

かみす防災アリーナには、メインアリーナ(バスケットボール3面, 観客席2,500席)やサブアリーナ(バスケットボール1面)があり、神栖市のインドアスポーツの拠点となることが期待されます。

この施設規模に対して安定的な利用率を維持するには、市民利用だけでなく市外利用を取り込む必要があります。

さらに、バスケットボールをはじめ、バレーボール, バドミントン, ダンス, フットサルなどのさまざまな競技種目を対象にすることにより、一年を通じた誘客が可能になります。

特に、インドアスポーツにおける神栖市内での合宿実施は未開拓分野であり、新たな誘客層の獲得につながる可能性が高いと考えます。

(4) 考察: 市民参加による利活用の拡大策

本節では、交流人口を増やす上での市民の役割について考察します。

スポーツ×観光を誘客テーマに設定した際、ビジネス活動に終始するものと考えがちです。

観光地になるということは、市民が誇りに思う、自慢できる、住んでいる街を紹介できる、ということが重要であり、中長期的に「スポーツのまち神栖」を目指すのであれば、一言で説明できる独自性があり、具体的なものをシンボルとして見える化し、市民の間で共有していく必要があります。

以下に、事業者ヒアリング対象の3氏のスポーツ×観光に関するコメントを列挙します。

■旅行会社A氏

- スポーツ×観光のインバウンドは観光がメインで、観光の一環でスポーツ種目体験があれば市場性はある（外国人観光客に受けるのは、相撲、空手の型などを見る機会）
- スポーツ庁、観光庁、文化庁合同で、インバウンドスポーツ体験を提供する自治体に対してアワードを設定している（例えば、小樽市のスポーツ雪合戦）
- 神栖市は海岸が特徴的だと思うが、風が強いことを活かせるかが課題

■サッカー関連企画会社B氏

- 工場見学、農産物テーマのPR、審判員合宿、宿泊施設が提供する機能サービスレベルの統一などがあれば、閑散期対策として有効だと思う

■大学スポーツ関連企画会社C氏

- スポーツ×観光のニーズについては、スポーツOB向けのツアーに市場性がありそう
- 民宿タイプの宿泊施設では、まだ海外からの受入れ体制ができていないように見える

3氏のコメントでは、新たな顧客ターゲット層を想定した上で、神栖市ならではの地理的、文化的、産業的特性を活かした観光資源開発の重要性が示唆され、いくつかのシンボルのヒントが提示されています。例えば、オリジナルスポーツ、海岸線や立地する工場群、農産物を活かした体験機会（スポーツ、観光の両面でみて）などですが、市民の誇りにどのように結びつくかについては今一つ明確ではありません。

市民の誇りを生むシンボルであるには、市外・県外で認識され、それを目指してやってくる観光客が増えると同時に、市民自身も同様に体験でき、発見、感動、満足などを得られ、一人ひとりの言葉で説明できるものとして位置づけられる必要があります。

そこで、神栖市のシンボルについて、神栖市の有望なスポーツ観光資源のうち、断片的に提供するモノ・コトではなく、それらを包含しつつ、さまざまなスポーツ体験を提供する場に絞って掘り下げてみたいと思います。スポーツ体験を提供する場に特化することによって、スポーツのまちを目指す神栖のイメージが具体化しやすくなるはずで

①シンボル拠点づくりの可能性を秘める「神之池」周辺

今後、神之池が市民の憩いの場として整備と機能強化によりシンボル化されるとともに、神之池自体もスポーツ施設の一つとして捉え、神栖市での国体開催種目であるカヌーやグラウンド・ゴルフの大会や合宿などの誘致を行うことができれば、「スポーツのまち・神栖」としてのブランディングの推進役を担うことも可能と考えます。以下に具体的なシンボル拠点づくりの方向性を提示します。

- 風光明媚な「神の池」と称され、神栖の名前の由来の一つにもなった神之池は、神栖市のシンボリックな存在。さらにその周辺にある神之池緑地施設があることから、「スポーツのまち・神栖」を象徴する空間と位置づけ、シンボル拠点となる施設の整備や、シンボルゾーンとしての機能集積などを図る
- Park-PFI など公民連携スキーム活用の可能性を検討しながら、民間事業者のノウハウを活かし、立地環境に相応しいカフェやレストラン、グランピング施設、ランニングステーション、足湯、屋外アートなどによる、憩い・交流・情報などの拠点となる機能形成を検討する
- このような拠点づくりの実現は、市民の神栖への愛着・誇りを育み、対外的な魅力・イメージ向上などにつながる

一例をここに示します。富山市の富岩環水公園の開発です。人口 41 万人（2019 年 3 月末現在）と都市の規模は違いますが、神栖市のまちブランドを構築する際の参考になると思われます。



図 4-43 都市ブランドの開発事例：富山市富岩運河水公園

さらに、市民参加の広がりをつくる場合、スポーツを「する機会」、「みる機会」、「支える機会」だけでなく、健康寿命を延ばすことを意図したスポーツ（軽い運動を含む）の活用が参加のモチベーションになりうると考えます。

体力や筋力の衰えに応じて、できるスポーツ、できないスポーツが変わっていきます。となると一つの競技種目に留まらずに、多様な競技種目との出会いの場が用意されることで、さまざまな人々のコミュニケーションや交流の場が生まれるであろうと想像します。個人で気軽にできるジョギング、ウォーキングに人気があるのも無理をしないスポーツのあり方が求められていると考えます。

②シンボル拠点づくりの好機到来となる「かみす防災アリーナ」

前述のように、2019年、神栖市には「かみす防災アリーナ」のオープンというニュースがあります。この施設がイベント企画やプロモートを通じて何を発信するか、市民だけでなく市外からの来場者をどのように受け入れるかによって、スポーツを「する機会」に加えて「みる機会」が広がり、神栖市の見え方は格段に変わるものと思われます。

シンボル施設の存在は、そこに行けば何かがある、楽しく時間をすごせる場への期待は、定期的な行動を喚起することにもつながります。

- （する機会）市民利用と市外利用のバランスを図るとともに、交流機会（練習試合等）をコーディネートする
- （する機会）屋外施設の天候不良時や熱中症対策時に、臨機応変にトレーニング室の利用や研修プログラム等での会議室を利用できるサービスを提供する
- （みる機会）各種スポーツのプロリーグ戦、国際大会・全国大会等の誘致以外に、パブリック・ビューイングなど多様なスポーツ体験イベントを開催する

交流人口の増加を目指すあまり、市民を置き去りにしたスポーツツーリズムにならないよう、市民との両輪で築き上げる仕組み、連携体制づくりを期待します。